

宇都宮大学は、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献するという理念の下で、 広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践します。

基本方針

教 育 幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成します。

研 究 持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進します。

地域社会のみならず広く国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開します。

<編集方針>

本報告書は、宇都宮大学のあらゆるステークホルダーの皆様に、本学の価値向上 に向けた取組をお伝えすることを目的に発行しております。編集にあたっては、次の ガイドラインを参考に、公的セクターとしての地方国立大学が、ステークホルダーに 開示すべき情報として何が有用かを踏まえた上で、内容を構成しています。

国際統合報告フレームワーク: 価値協創のための 統合的開示・対話ガイダンス: 経済産業省



CONTENTS

宇都宮大学の価値創造

バリューチェーンの フレームワークを応用した活動分析

宇都宮大学の軌跡

数字で見る宇都宮大学

ステークホルダーのみなさまへ (学長メッセージ)

アクションプラン2022-2027の概要

Vision 1 未来を切り拓く人材の育成

Vision 2 持続可能な社会の実現に資する研究

Vision 3 対話から生み出される社会共創

Vision 4 学内のコンセンサスに立脚した組織運営

29 環境への取組

30 SDGsの推進

31 宇都宮大学のマネジメント体制

33

36 コストの見える化に向けた取組 宇都宮大学3C基金

大学概要

宇都宮大学の価値創造

地域活性化のエンジンとなる価値創造プロセス

理念

人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する

基本姿勢

「地域に学び、地域に返す、地域と大学の支え合い」という姿勢を大切にし、"地域の知の拠点"として変革をリードする

宇大スピリット=「3C精神」+「3Cアクション」

「3C精神」: ~明るい未来を開拓するために~

主体的に挑戦し(Challenge)、時代の変化に対応して自らを変え(Change)、広く社会に貢献する(Contribution)「3Cアクション」: ~大学が地域や社会と共創していくために~

主体的に社会と繋がり(Connect)、責任をもって社会に関与し(Commit)、多面的に社会と協働する(Collaborate)

4つの Vision

Vision 1 未来を切り拓く人材の育成

Vision 2 持続可能な社会の実現に資する研究

Vision 3 対話から生み出される社会共創

Vision 4 学内のコンセンサスに立脚した組織運営



インプット

社会•関係資本

- ▶歴史と伝統を継承しつつ、社会の変化に柔軟に対応 した組織改革の歴史
- ・創立75年
- ・2学部(創立時)→6学部(2025.4)
- ▶豊かなフィールドを持つ栃木県という立地条件
- ▶地域、社会との連携
- ・地域等との連携協定:133件

知的資本

- ▶世界に通じる特色分野の研究の推進
- ・分子農学、オプティクス、ロボティクス
- ▶地域に資する研究の推進
- ・雑草防除、野生動物管理
- ▶異分野融合研究を創出しやすい環境

人的資本

- ▶多様な教員の確保
- ・若手教員、女性教員、実務家教員、外国人教員
- ▶教職員のモチベーションアップ
- ・多様な人事制度、多様な給与体系

財務資本/製造資本

- ▶資産・収益の確保
- ・総資産:80,715百万円 ・経常収益:10,332百万円
- ▶教育・研究経費の確保
- ・教育コストの学生一人当たり換算額: 126万円 ・研究コストの教員一人当たり換算額: 1,129万円

白然資本

- ▶エネルギー使用量: 118,216GJ
- ▶水使用量:133千㎡

事業活動

理念・基本姿勢・宇大スピリットを ベースとした、VISION・戦略に 基づく事業運営

教育

- ▶学修者本位の教育の実現
- ▶時代を先導する教育組織・プログラムの創出
- ▶実践的な大学院教育の推進
- ▶高大接続改革と新たなアドミッションの展開
- ▶学生の多様なニーズへの支援の充実

研究

- ▶研究力の強化と研究支援体制の整備
- ▶地域発オープンイノベーションの先導
- ▶地域創生推進モデルの確立
- ▶教職員の戦略的な配置

社会貢献

- ▶地域創生推進モデルの確立
- ▶地域教育界の先導
- ▶地域の学び直し拠点機能の拡充

アウトプット

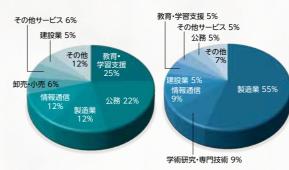
主な指標

卒業生(修了生)累計(1950~2023)

- ▶学部卒業生:57,975人
- ▶大学院修了生(修士·博士前期):12,203人
- ▶大学院修了生(博士後期):832人

2023年度卒業生(修了生)の進路

学部卒業生大学院修了生就職:57%就職:87%進学:40%進学:5%その他:3%その他:8%



共同研究等受入件数

(2023): 246件

社会に対する学術的知見提供件数

(2023):214件

宇大未来塾(社会人学び直しプログラム)修了者

(2017~2023):343人

社会実装に至ったプロジェクト

(2023):48件

アウトカム

学生への価値

- ▶質の保証された教育の展開
- ▶安全かつ充実した学生生活環境
- ▶多様な学生支援による学修機会の保証

地域・社会・産業界への価値

- ▶優秀な人材の輩出
- ▶研究成果の社会実装
- ▶シンクタンクとしての「知」の提供
- ▶社会人の高い学修満足度
- ▶地域経済の活性化

卒業生・修了生への価値

- ▶歴史と伝統の継承
- ▶ブランド力の向上

教職員への価値

- ▶安全で働きやすい職場環境の提供
- ▶仕事へのモチベーションの維持・向上

環境価値

▶地球温暖化対策

→ゼロカーボンユニバーシティー

02

人類・国際社会への価値

▶SDGsの達成への貢献

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GALS

バリューチェーン(価値の連鎖)は、一般的にビジネスにおける生産から消費までの活動をセクションに分けて整理・分析し、各セクションで加わ る価値を可視化する手法とされています。この手法を応用して、大学の主な活動である教育、研究、社会貢献について、各セクションにおける 本学の特徴、強み・差別化ポイントと大学を取り巻く社会の動向や国の政策等に対し、本学のアクションプランがどう紐付くかを整理しました。 宇都宮大学は、アクションプランの達成を通じてあらたな価値の創造に取り組んでいきます。

学生受入

教育課程

卒業・修了、就職・進学

地方総合大学というカテ ゴリーの中にあって、栃木 県内を始めとした志願者 のニーズに対応するため、 しています。

▶ 強み・差別化ポイント

・栃木県内に立地する四年制大 学では唯一の学問分野(経営情 報学、コミュニティデザイン学、 国際学、農学)

より多くの学問分野を有 ・多様な学生を受け入れるため の入学者選抜(一般、学校推薦 型、帰国生、社会人、外国人生 徒、総合型、3年次編入等)

▶ 強み・差別化ポイント

修十•博十(光丁学)

修士•博士(国際学)

・博士後期課程学生へ

の授業料免除制度の

修士(分子農学)

・特徴的な学位:

入学から卒業まで一貫した学びの体系を通して、学生が3C精 神(主体的に挑戦する「Challenge」、自らを変える「Change」、 広く社会に貢献する「Contribution」)と行動的知性(課題解決 に向けて、さまざまな知識を統合し、それを行動につなげる。)を 養う教育プログラムを構築しています。

※青字で書かれた事項はアクションプランの成果によって加わった強み・差 別化ポイント(以下同じ)

▶ 強み・差別化ポイント

- ・能動的な学びを育む教育手法、教育環境
- →アクティブ・ラーニング型授業開講率 100%、ラーニング・コモンズ整備・充実
- 特色ある教育プログラム
- →EPUU (English Program of Utsunomiya University)、データサイエンス、SDGs
- →ブレンディッド・ラーニングの着実な拡大、 ルーブリックを用いた多面的評価

▶ 概要·特徴

プロマ・ポリシーに沿った資質を 備え、それぞれの専門分野を活 かせる業種あるいは職種に就い ・OB・OGの活躍による大学の評価向上 ています。また、高度な専門的知 識を修得するため大学院に進学 します。

▶ 強み・差別化ポイント

- 各課程を修了した学生は、ディ・きめ細かな就職支援:キャリアアドバイザー等による個別支援、 学生同士のピアサポート、各種セミナー・ガイダンスなど
 - →就職希望者の就職率99.8%(2024.3卒)
 - →人事が見る大学イメージランキング(日本経済新聞社・日経HR)

採用を増やしたい大学ランキング2020:第3位

学士課

活

▶ 大学を取り巻く社会の動向や国の政策等

- ・18歳人口の減少や大学志願者の大都市志向
- 理系専攻重視の施策

- ・初等中等教育の学びの変化→リアルとデジタルの最適化
- 教育の質の保証
- ・学修者本位の教育への転換

・Society5.0に向けた人材育成

- ・グローバル化の進展
- ・データサイエンスのスキルを身に付けた人材需要の高まり

<参老>

- 中教審「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(答申)
- 中教審大学分科会[新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について](審議まとめ)
- 中教審大学分科会「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策」(審議まとめ)等

アクションプラン2022-2027

における関連する主な戦略

プリメントの開発・運用

戦略5

高大接続改革と新たなアドミッションの展開

- 高大連携活動の拡充強化
- 高大接続入試の実施
- ・エビデンスベースの入試戦略の立案・実施
- ・本学の学びにマッチした入学者の安定的な確保

学修者本位の教育の実現

- ・基盤教育を中心とした教育プログラムの精選・見直しによる 「宇大スタンダード」の着実な修得
- ・デジタル技術を活用したブレンディッド・ラーニングの段階的取 り入れ

時代を先導する教育組織・プログラムの創出

・データサイエンスと経営学の素養を身に付け る新たな学位プログラムの創設

戦略6

学生の多様なニーズへの支援の充実

・様々な背景を持つ学生へのサポートの拡充、 安心して共に学ぶインクルーシブな環境整備

博士前期課程は、学部を基礎とした 従来型の課程ではなく、分野を横断 した学際的な1研究科2専攻の中に 16の学位プログラムを配置してい ます。また、学校改革・授業改善の リーダーとなるべき人材を育成する 教職大学院(専門職学位課程)を設 置しています。

博士後期課程は、博士前期課程を ベースとした更なる専門深化を実 現するプログラムとしています。

博士前期課程、博士後期課程では、コンセプトである文理融合・ 分野融合を実現するため、学生の専門分野だけでなく、異なる分 野の教員による複層的な指導体制とともに、「地域創生リテラ シー科目」や「境界・学際領域科目」(博士前期課程)、「副専門研 修」や「臨地研究」(博士後期課程)など学際的な思考力・実践力 に資する科目を配置しています。

教職大学院(専門職学位課程)では、「学校改革力」「授業力」「個 への対応力」の伸長を目指すため、学卒院生と現職教員が共に 学ぶ体制により、最新の理論・指導法の幅広い学び、学校現場に 密着した実践研究、これらの理論と実践をつなぐ「リフレクショ ン
によって学びの深化を図っています。

▶ 強み・差別化ポイント

・文理・分野横断の多様な学位プログラム 分野融合と研究指導体制

・獲得能力を社会に説明するディプロマ・サ

・学際的思考力を養う研究科共通(地域創 生リテラシー)科目群の配置

▶ 概要·特徴

各研究科の専攻(プログラム)を修了した 学生は、高度な専門的知識を活かし、研究 職や開発職、公務員の上級職、学校現場 のリーダー等となって多方面で活躍して います。

▶ 強み・差別化ポイント

- ・専門分野のみにとらわれない幅広い思考力・実践力の
- →俯瞰力、協働性、コミュニケーション能力の獲得

大学院課

▶大学を取り巻く社会の動向や国の政策等

博士後期課程進学者の安定的確保

トランスファラブルスキルの修得

・コースワークと研究指導の最適化

・大学院修了者の進路の確保とキャリアパスの多様化

<参考>中教審大学分科会「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿」(審議まとめ)等

アクションプラン2022-2027

における関連する主な戦略

戦略6

学生の多様なニーズへの支援の充実

・学生への手厚い経済的支援の拡充

実践的な大学院教育の推進

・地域社会・産業界との共同研究、連携プロジェクト、長期インターンシップ等のフィールド教育の導入による幅広い視野を持った高度専門職業人の養成

教育・研究分野の設置

人材確保・研究環境の 慗備

研究成果の発信、社会実装

▶ 概要·特徴

に工学の3学部から、全国の先駆け となった国際学(1992)、文理・分野 融合の地域デザイン科学(2014)、 さらには、データサイエンスと経営・伝統ある特徴的な研究: を融合させた新たな分野の設置 (2024)を加えた6学部(研究分野) を擁しています。

▶ 強み・差別化ポイント

- 開学当初からの教育学、農学、のち ・世界的な、またはイノベーショ ンに直結する特色ある研究: 分子農学、オプティクス(光工 学)、ロボティクスなど
 - 雑草管理学、野生鳥獣管理学 など

▶ 概要·特徴

人材(教育・研究者)の確保にあたっては、戦略的な観点から必 要な分野を見極めて人事を発議し、広く公募を行ってより良い人 材を選考しています。また、研究意欲が旺盛な若手研究者を、原 則テニュアトラック制で採用し、業績を評価したうえでテニュアを 付与する仕組みを導入して優秀な人材の確保に努めています。 研究環境の整備としては、研究設備の共用化と戦略的な導入・ 更新、スペースマネジメントによる共用施設の確保と再配分、卓 越教員制度(研究への専念)の導入などを行っています。

▶ 強み・差別化ポイント

- ・戦略企画本部(執行部で構成)に おける人事の一元管理による戦 略的人員配置の実現 ・人事に加えて、経営の4大資源で
- ある施設設備、予算、情報につい ても戦略企画本部で一元的に管理 →トータルでの戦略的な資源配分 を実現

▶ 概要·特徴

本学から生み出された研究成果は、公式ホームページの トピックスへの掲載や報道各社へのプレスリリース等に よって積極的に発信されています。また、毎年コラボレー ションフェアを開催して産業界等とのマッチングの強化 を図っているほか、工農の技術融合による実用化ロボッ トの研究開発拠点である「ロボティクス・工農技術研究所 (REAL) |では社会実装に向けた多くの研究プロジェクト が進行しています。

戦略15

▶ 強み・差別化ポイント

- ・長年築いてきた、文理、分野融合による学内連携 の風土
- ・研究成果の社会実装に向けた組織的取組み →大学発ベンチャー設置推進
- ・リサーチ・アドミニストレーター(URA)、コーディ ネーターによるマッチングの強化

▶大学を取り巻く社会の動向や国の政策等

科学技術・イノベーション基本計画 (閣議決定)

- ・地球規模課題の克服に向けた社会変革とイノベーションの推進
- イノベーション・Tコシステムの形成

- 研究開発・社会実装の推進と総合知の活用
- ・多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築
- ・新たな研究システムの構築
- ・オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進

アクションプラン2022-2027 における関連する主な戦略

研究力の強化と研究支援体制の整備

- ・分野融合・学際的研究を含む強みとなる独創的で卓越した研究 の強化・推進
- ・光工学における社会実装拠点の確立
- ・アグリバイオ産業に資する研究拠点化の推進
- ・URA等の育成と組織化による研究の計画・推進の支援・充実
- 研究基盤の計画的整備と施設・設備の共用化の推進

地域発オープンイノベーションの先導

- ・研究IRによる学内研究分析に基づいた組織対組織の共同研究・ 連携活動の創出
- →イノベーション・エコシステムの確立
- ・REALを中心とした産業界、地域社会との連携による、IoT、ロボッ ト技術などのテクノロジーの実装、普及

戦略 9

地域創生推進モデルの確立

- ・本学の学術研究資源を活用した新たな共創的研究の発 展と、研究成果の社会実装の積極的推進による資金好
- ・産学官金連携による共創体制を確立して地域創生に結 びつくイノベーションを創出することで、地方自治体や地 **域の産業界をリード**

安定した財務基盤の確立 ・強みの伸長と課題への対応に最大限 の効果を生み出す戦略的資源配分

- 教職員の戦略的な配置 ・人事給与マネジメントの高度化による 戦略的な人員配置と人材育成
- ・適正な人事評価による処遇の改善

ニーズに応じた多様な貢献活動

活動を支える 組織整備

地域社会との信頼関係の構築による共創

▶ 概要·特徴

多くの教育・研究分野を有 する本学には、地域社会か ら様々なニーズが寄せられ、 それに応じた多様な貢献活 動が行われています。

▶ 強み・差別化ポイント

- 専門的知見の提供
- →地域課題解決に向けたパートナーシッ プ、地域のグローバル化への対応、地域 教育界との連携、各種技術支援、地方 自治体の各種会議への参画など
- ・地域の学び直し拠点
- →宇大アカデミー

地域社会との連携を一層強化し、"地域の知の拠点"とし て社会的ニーズに応える組織[地域創生推進機構]を設 置しています。本機構は、ニーズに応じた右に示す3つの 部門を有し、地域社会との総合窓口としての機能を担っ ています。

▶ 強み・差別化ポイント

- ・社会共創促進センター:地域のシンクタンク機能、自治体 や産業界等の多様な外部との連携・共創の一元的窓口組織
- ・イノベーション支援センター:地域イノベーションの創出、 知財管理に基づく研究成果の社会実装促進組織
- ・宇大アカデミー:地域市民、社会人の方々が学び続ける場 としての仕組みづくり、環境の整備・拡充の総合的組織

▶ 概要·特徵

社会貢献を通じた多様 なステークホルダーとの 双方向対話を通じて信 頼関係を構築し、社会共 創を推進しています。

▶ 強み・差別化ポイント

- 社会貢献を通じた、市民、産業界、学校、自治体の関係 部署等、現場のステークホルダーとの直接対話や、ス テークホルダー会議における経営者層、自治体首長等 からの意見・要望の聴取など、多面的な対話の機会
- ・国立大学唯一の品種登録米[ゆうだい21]の優良食 味米としての実績と社会的認知度の向上
- →ブランド力向上による販売促進と生産の拡大

▶大学を取り巻く社会の動向や国の政策等

- ・社会人の学び直しの多様化 →リカレントとリスキリング
- ・ 教員養成大学・学部、教職大学院の高度化・機能強化
- 教師を支える環境整備→学びの振り返りを支援する仕組みの構築
- <参考>中教審「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」(答申)

- ・地域産業の磨き上げに資する地方大学→大学が持つ知的・人的リソースによるイノベーションの惹起
- 新産業創出の原動力としての地方大学→新たな産業の起爆剤とするべく大学のリソースの積極的な提供
- <参考>地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議(内閣府)取りまとめ

アクションプラン2022-2027 における関連する主な戦略

地域創生推進モデルの確立

- ・起業に意欲がある学生や地域の起業家人材に対する研究開発支援
- ・教育支援を行うことにより地域での起業、新産業創出への寄与

戦略10

地域教育界の先導

・教員養成・研修機能の高度化と附属学校の地域のモデル校とし ての役割強化により、地域における質の高い教員の育成と学校 支援による学校教育の質向上への貢献

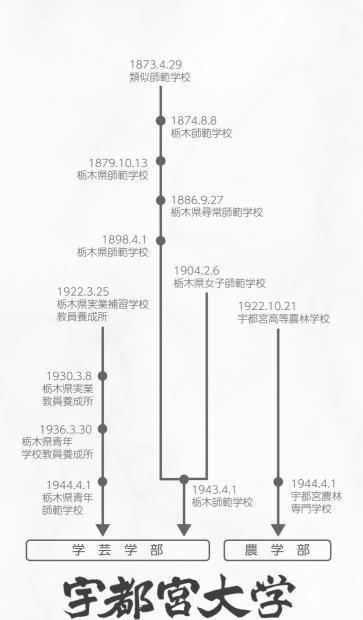
地域の学び直し拠点機能の拡充

- ・「宇大アカデミー」の高度化・デジタル化
- ・社会人向けの「ニューフロンティア・プログラム」の創設

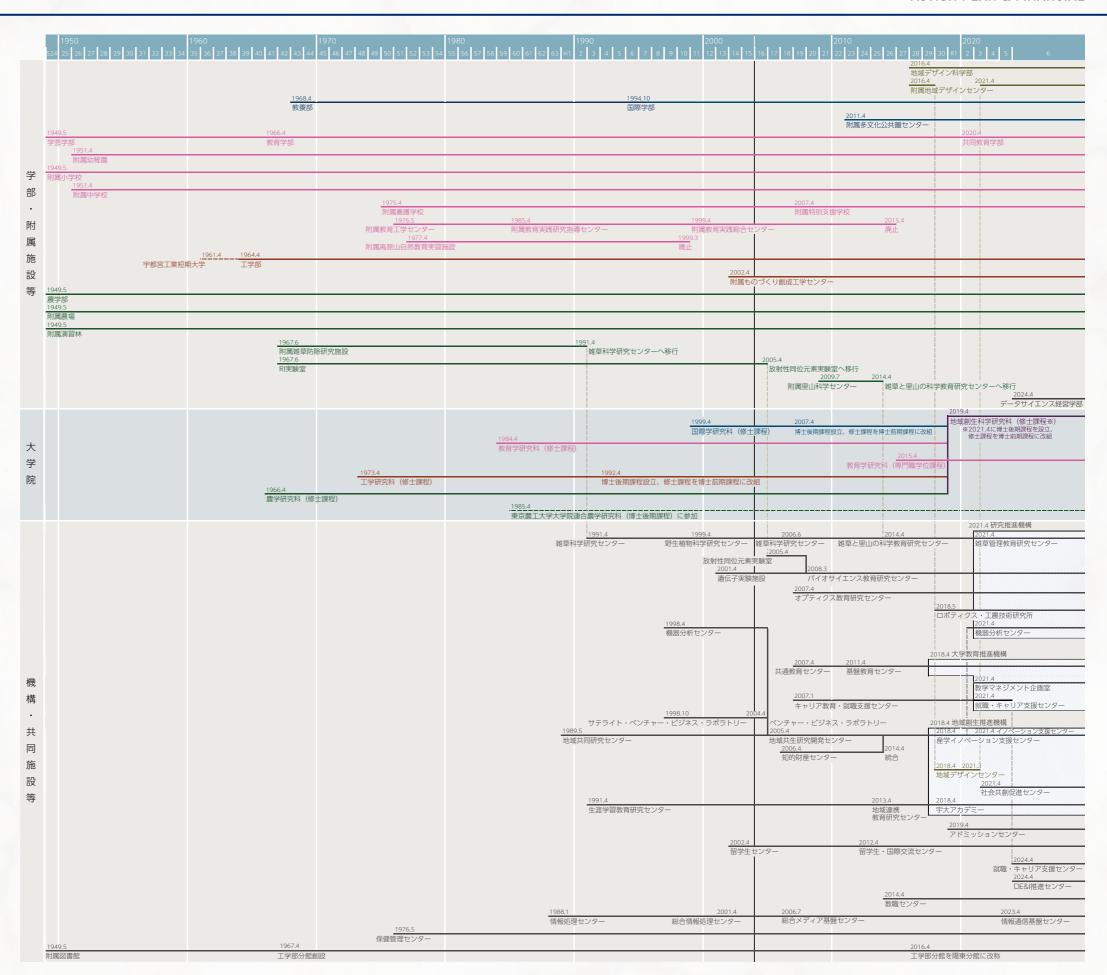
豊かな教育研究フィールドの活用と社会還元

・「ゆうだい21」の戦略的普及による生産者主導の新たな水稲普及モデルの確立

80



国立学校設置法(法律第150号)の施行に伴い、新制の宇都宮大学 (栃木師範学校、栃木青年師範学校及び宇都宮農林専門学校 (1951.3.31廃止)を包括)として1949年5月に発足



宇都宮大学の軌跡 ACTION PLAN & FINANCIAL



昭和初期のフランス式庭園



1970年代(昭和50年代)の峰キャンパス(上)と陽東(石井)キャンパス(下)





つつじが咲いているフランス式庭園



現在の峰キャンパス(上)と陽東キャンパス(下)



数字で見る宇都宮大学 ACTION PLAN & FINANCIAL

在籍者の 出身地 宇都宮大学の学生の出身地は 全国各地に分布しています。

このうち栃木県出身者は全体の35%を占め、

関東と東北出身者は

0

全体の約80%を占めています。

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

2024年5月1日現在学部学生 (外国人留学生、大学入学資格検定) による入学者を除く

栃木県内の大学における収容定員のシェア(学位ベース)

宇都宮大学は栃木県唯一の国立大学であり県内の他の四年制大学にはない学問分野(経営情報学、コミュニティデザイン学、国際学、農学)を有しています。また共同教育学部は全ての教員免許が取得できる唯一の教員養成学部です。

109

138

101

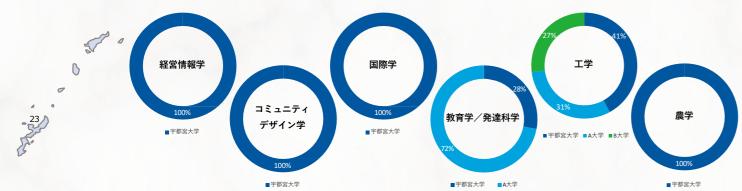
222

1441

112

315

128



学士課程卒業者の就職率の推移

宇都宮大学の学士課程(学部)卒業者の就職率は、文部科学省が公表する全国の大学の平均を常に上回っています(左図)。コロナ禍においても学生の就職活動を確実に支援し、就職率は2021年度に100%を達成しました。また、学士課程の実就職率*においても高水準を維持しています(右図)。

※「就職者数÷(卒業生数-大学院進学者数)×100」の計算式によって算出したもので、「就職希望者に対する就職者の割合(左図)」で算出される就職率と比較して低くなる傾向にありますが、より実態に即した状況が表されると言われています。

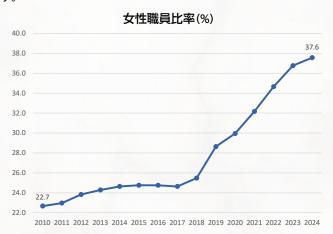




女性教職員比率の推移

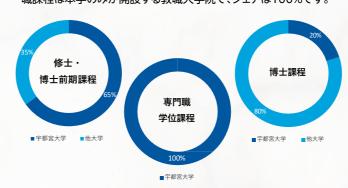
宇都宮大学では、男女共同参画推進室を設置するなどして、女性が働きやすい環境を整備してきました。また、ダイバーシティ研究環境推進本部を設置して女性研究者のキャリアアップを図る施策を実施しています。





大学院課程の収容定員のシェア

栃木県内の大学院課程の全収容定員における宇都宮大学のシェアは、修士・博士前期課程が65%、博士課程が20%を占めます。専門職課程は本学のみが開設する教職大学院で、シェアは100%です。



学部入試倍率の推移

学部入試倍率については、2021年まで下落傾向でしたが、それ以降 上昇傾向となり、本年度はデータサイエンス経営学部の設置や工学 部の入試方法の変更の結果、昨年度と比較して大幅に上昇しました。



ステークホルダーのみなさまへ

学長メッセージ

本年は、2022年度からスタートした第4期中期目標・中期計 画期間とこれに合わせて策定した総合的な事業計画である「ア クションプラン2022-2027 の計画期間の3年月、いわば中間 地点ですが、実は、4年月終了時に中期目標・中期計画期間の評 価が行われることになっており、それに向け、成果や実績の積み 重ねが重要な時期でした。

また、国内外で立て続けに発生した自然災害や、社会の分断 を招く事件や紛争、コロナ禍を経て急速に進展しているデジタ ルトランスフォーメーション(DX)化やAI技術の発展に伴い、あ らゆる国や地域、業界が、対応、変革を迫られている中、国立大 学法人の存在意義とその将来像が強く求められています。

このような状況のもと、宇都宮大学は、地域活性化のエンジ ンとなる地域の知の拠点として、ステークホルダーのみなさまと 共に進み、共に創り上げる「共創」、そして多様な視点を持ち幅 の広い知識と教養を土台として高い専門性を確立する「複眼」 の姿勢により、様々な施策に取り組んでいます。

その一環として、2024年4月に設置したデータサイエンス経 営学部は、データサイエンスと経営学の教育・研究・地域貢献を 推進することによってSociety5.0に適合した地域産業・地域経 済の成長に貢献することを基本理念とし、データサイエンスと経 営学の実践的知識を修得し、課題解決や意思決定、価値創造に 繋げられる次世代人材の育成を目指しています。また、大学院 の新専攻を、地域の皆様からの要望に応える形で予定を早め、 令和8年度に設置できるよう準備を進めています。さらに、これ らの施策に伴い、学生だけでなく地域社会にもデータサイエン ス教育を提供できる「データサイエンス総合教育研究センター」 (仮称)の設置も計画しています。当センターでは、地域の社会 人向けリカレント教育プログラムとして多くの修了者を輩出し ている宇大未来塾とも連携し、地域社会で産官学を問わず活躍 するデータサイエンス人材を育成できる設備を構築することを 検討しています。

以上の取組をはじめ、冒頭に記した今期の計画達成のベース として取り組んだ活動を簡単にご紹介します。詳しくは17頁~ 28頁で説明しておりますので、ご覧ください。

【Vision1:未来を切り拓く人材の育成】

- ▶全ての学生に身につけて欲しい6つの汎用的能力「宇大スタ ンダード」をベースとして、基盤教育(教養教育)科目の再編成 を行い、また、宇大スタンダードの達成度をルーブリックを活 用して多面的に評価する方法を全学展開しています。
- ▶学修の質や修学環境の状況を検証して「UUIR-Report」とし てホームページで公表しています。
- ▶データサイエンスと経営の両分野の専門性を磨き、文理・分野 複眼の視点を身につける新学部[データサイエンス経営学 部」が設置されたほか、大学院新専攻の設置および農学部の 改組を構想しています。

【Vision2:持続可能な社会の実現に資する研究】

- ▶イチゴ生産量54年連続で全国1位を誇る栃木県に立地する 大学として、栽培イチゴの元となる野生イチゴの特性を解明 するための[宇都宮大学野生イチゴプロジェクト]を推進して
- ▶産学官の研究開発プロジェクト拠点である「ロボティクス・エ 農技術研究所(REAL)」にて、実用化等の水準であるイノベー ションレベル4を達成したものを含め多くの先進的研究を実 施しています。

【Vision3:対話から生み出される社会共創】

▶大学初の品種登録米「ゆうだい21」が全国各地の米の品評 会を席巻しています。その普及を図るため、全学的なプロジェ クトを展開しています。

【Vision4:学内のコンセンサスに立脚した組織運営】

▶多方面のメンバーによる「ステークホルダー会議」を数度に亘 り開催し、分野に応じた様々な意見や期待、要望が寄せられ ています。

宇都宮大学は、"宇大スピリット"である「3C精神」(Challenge, Change, Contribution)と[3Cアクション] (Connect、 Commit、Collaborate)によって、構成員一人ひとりが様々な ミッションに共創の概念と複眼の視点を持って主体的に取り組む ことで、アクションプランの達成に向かうとともに、地域や社会の ニーズを的確に捉えながら、未来社会を見据えた人材育成・研究 に全力で取り組み、地域からの信頼と期待に応え、Well-being 社会の実現に貢献する「成長し続ける大学」を目指します。

2024年12月

国立大学法人宇都宮大学長





Topics in FY2023

2023



- ・学生の提案と3C基金の援助を受け、SDGs推進活動として給 水スタンドをキャンパス各所に設置
- ・地域デザイン科学部が特定非営利活動法人栃木県防災 士会と相互協力連携協定を締結
 - ・連合農学研究科で87歳の学生が博士号を取得



- ・藤井佐知子理事(当時)が令和5年度男女共同参画社 会づくり功労者内閣総理大臣表彰を受賞
- ・共同教育学部附属特別支援学校と栃木県警察学校が 交流会を実施



- ・宇都宮ブリッツェンと共同で「地域共創のための自転車 利用に関する研究」を開始
- 8
- ・ゆうだい21現地検討会<聖地巡礼ツアー>(ゆうだい21 サミット2023)を開催
- ・データサイエンス経営学部の開設が正式決定 ・本学発ベンチャー企業
- 本学発ベンチャー企業 「(株)ホロデザイン」設立 HOLODESIGN



- ・日本テレビ系列「満天☆青空レストラン」でゆうだい21の特集が放送
- ・学生団体応援イベント「Giving Campaign 2023」を開催



- ・地域経営研究会を設立
- ・農学部附属農場にて、新牛舎及び管理棟の竣工式を実施



- ・「米・食味分析鑑定コンクール」において、金賞の過半数をゆうだい21が獲 得し、受賞数でコシヒカリを上回る
- 国際人道法模擬裁判大会国内予選で国際学部の学生が最優秀弁論賞を受賞



- ・能登半島地震の復興支援に係る現地調査及び研究会を実施
- ・甲信・北関東6大学、各企業及び自治体と大学発のスタートアップを創出 するプラットフォーム「IJIE」に参加

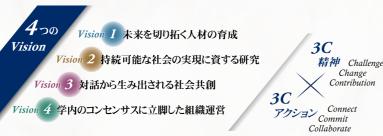


- ・獨協医科大学と教育上の交流・連携に関する協定を締結
 - ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)総括シンポジウム開催



・米子高専と教育上の交流・連携に関する協定を締結

宇都宮大学アクションプラン2022-2027は、現代社会の変化と、大学が果たすべき役割についての認識に基づき、本学が6年間で成し遂げるべき目標を4つのVisionとして定め、その実現を目指した17の戦略を掲げるものです。



4つのVisionと17の戦略



未来を切り拓く 人材の育成

Society 5.0 を見据えた複眼的な視野や汎用的能力、専門知をもって主体的に学修・行動し、新たな価値を創造して地域から未来を切り拓く人材を育成します。

戦略1 学修者本位の教育の実現

- ≫入口から出口まで一貫したポリシーの下での人材育成を確立する ために、各教育プログラムのカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポ リシーを見直した上で、新たなアドミッション・ポリシーを設定します。
- ≫文理複眼的視点と汎用的能力を身に付けさせるために、基盤教育を中心に各教育プログラムの精選・見直しを進め、「宇大スタンダード」の着実な修得を目指します。
- ≫デジタル技術を有効活用してブレンディッド・ラーニングを段階的に 取り入れ、デジタル学修コンテンツの充実と対面授業での活動の質 的深化を図ります。
- ≫学生の学修意欲を高め主体的な学修を確立するために、学修の質を継続的に検証・可視化するとともに、学生の獲得能力を社会に説明するためのディプロマ・サプリメントを開発し運用します。

戦略2 時代を先導する 教育組織・プログラムの創出

- ≫地域社会や産業界が求める数理・データサイエンスの素養を持ち、 経営学の基礎と特定の分野の経営に関する実践的な知識を身に付ける新たな学位プログラムを創設します。
- ≫データサイエンス経営の知識をさらに深める大学院新専攻と、時代に即した農学部の改組を行います。

戦略3 実践的な大学院教育の推進

≫文理をまたがる指導教員体制のもとで、地域社会・産業界との共同研究、連携プロジェクト、フィールドワーク、長期インターンシップ、分野融合・学際的な修士論文研究課題等のフィールド教育を積極的に導入し、幅広い視野を持った高度専門職業人を養成します。

戦略4 共修による グローバルキャンパスの構築

≫留学生と日本人学生の共修科目の導入や「グローバル人材育成プログラム」の刷新等により、多様な価値観に触れる機会を拡充して

国際感覚豊かな学生を育成します。

戦略5 高大接続改革と 新たなアドミッションの展開

- ≫高大連携活動を拡充・強化するとともに、高大連携事業として実績のある科学人材育成プログラム(iP-U)を活かした高大接続入試を実施して、iP-Uで育成したポテンシャルの高い人材を迎え入れ、科学や地域社会の発展に熱意を持つ優秀な人材の育成に寄与します。
- ≫これまでの入学者等の実績や各種動向調査を踏まえたエビデンス ベースの入試戦略を立案・実施するとともに、新しいアドミッション ポリシーに合致した選抜方法を確立して、本学の学びにマッチした 資質・能力を有する入学者の安定的な確保に努めます。

戦略6 学生の多様なニーズへの支援の充実

- ≫様々な背景を持つ学生へのサポートを拡充し、誰もが安心して共に 学ぶインクルーシブな環境を整備します。
- ≫学生へのメンタルヘルスケアの充実とともに、手厚い経済的支援を 拡充します。

Jision 2

持続可能な 社会の実現に資する研究

基礎研究の深化と特長ある先端研究、地域イノベーションに 資する応用研究を推進し、地域から世界へ広がる幅広い課 題の解決に資する研究によって、持続可能な社会の実現を 目指します。

戦略7 研究力の強化と研究支援体制の整備

- ≫研究推進機構の先導のもと、分野融合・学際的研究を含む本学の強みとなる独創的で卓越した研究を強化、推進します。
- ≫日本初の光工学の学位を授与する大学として、オプティクス分野の 教育研究の集約と体系化、国際化を進め、光工学社会実装拠点の 確立を目指します。
- ≫世界レベルの研究ポテンシャルを有する植物分子農学分野を中核に、持続可能なアグリバイオ産業に資する研究拠点化を目指します。
- ≫研究基盤を計画的に整備し、施設・設備の共用化を推進します。
- ≫URAや技術支援人材の育成と組織化を進めて、研究の計画・推進 の支援を充実させます。

戦略8 地域発オープンイノベーションの先導

- ≫研究成果を社会実装につなげるイノベーションエコシステムの確立を目指して、研究IRによる学内研究の分析を基に、組織対組織の共同研究、連携活動の創出と共同研究講座の設置を進めてイノベーションに結びつく知を創出します。
- ≫雑草学分野で国内唯一の教育研究組織である雑草管理教育研究 センターを始めとして、本学でしか培えない技術と知見を社会展開 するとともに、その普及と実装を担う人材を育成します。
- ≫ロボティクス・工農技術研究所(REAL)を中心に、産業界、地域社会と連携して、IoT、ロボット技術などの普遍的に求められるテクノロジーの実装、普及を進めるとともに、それらの研究開発人材を輩出してSociety 5.0 の実現に貢献します。

Jision

対話から生み出される 社会共創

多様なステークホルダーと双方向対話を通じた強い信頼関係を構築し、地域の活性化に資するハブ的役割を担って新たな社会共創モデルを確立します。

戦略9 地域創牛推進モデルの確立

- ≫地域及び産業界とともに地域課題・社会的期待を見出し、産学官金連携による共創体制を確立して地域創生に結び付くイノベーションを創出することで、地方自治体や地域の産業界をリードします。
- ≫本学の学術研究資源を活用して新たな共創的研究を展開するとともに、研究成果の社会実装を積極的に進め、資金の好循環を実現します。
- ≫起業に意欲がある学生や地域の起業家人材に対する研究開発支援・教育支援を行って地域の起業、新産業創出に寄与します。

戦略10 地域教育界の先導

≫学部・教職大学院・附属学校が一体となって教員養成・研修機能の 高度化を図るとともに、附属学校の地域のモデル校としての役割を 強化し、地域における質の高い教員の育成と学校支援による学校 教育の質向上に貢献します。

戦略11 地域の学び直し拠点機能の拡充

- ≫ニューノーマルのリカレント教育構築のために、本学独自の社会人 学び直しプログラムである「宇大アカデミー」の高度化・デジタル化 を図ります。
- ≫新たな社会人向けプログラムとして「データサイエンス・DXプログラム」を創設しました。

戦略12 豊かな教育研究フィールドの活用と 社会還元

≫本学が有する充実したフィールド教育・研究施設とフィールドサイエンスに関する実践的ノウハウを積極的に活用し、大学間連携を推進するとともに、社会との共創による成果の普及・還元に努めます。

≫優良食味米として評価の高い「ゆうだい21」の戦略的普及により、 生産者主導の新たな水稲普及モデルの確立を目指します。



学内のコンセンサスに 立脚した組織運営

全構成員が大学のビジョンを共有し、当事者意識を持った一体的な組織運営を行い、取組の成果についてステークホルダーに対する説明責任を果たします。

戦略13 構成員との意思疎通による ビジョンの共有

≫定期的なコミュニケーションの場を設けることによって大学のビジョンを全構成員が共通理解するとともに、達成に向けた具体的な取組を提案できる風通しのよい組織を形成します。

戦略14 ステークホルダーを巻き込んだ 大学経営モデルの構築

- ≫多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた信頼関係を 構築し、計画の進捗状況のチェック、成果の検証、計画の見直しの 一連のサイクルを確立します。
- ≫ステークホルダーに対し、統合報告書などによって多角的な経営情報を開示して意見等を聴取し、経営の改善に役立てます。

戦略15 安定した財務基盤の確立

- ≫ステークホルダーとの相互理解の獲得と互恵的協働により新たな 投資を呼び込むとともに、保有資産の最大限の有効活用に努め、安 定した財務基盤の確立を図ります。
- ≫成果を中心とする実績に基づき、強みの伸長と課題への対応に最大限の効果を生み出す戦略的な資源配分を行います。

戦略16 働き方改革の推進による ワークライフバランスの実現

▶DE&I(ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公正性)&インクルージョン(包摂性))の促進を専門に担う組織を創設するなど、多様な学生・人材に対するワークライフバランスの実現を目指します。

戦略17 教職員の戦略的な配置

- ≫人事給与マネジメントの高度化によって戦略的な人員配置と人材 育成を行い、年齢バランスの適正化を図るとともに、若手・女性を積 極的に採用して多様性の確保に努めます。
- ≫適正な人事評価による処遇の改善を図ります。

2022年からスタートした新アクションプラン「アクションプラン2022-2027」における2022~2024前期の主な取組についてご紹介します。



未来を切り拓く人材の育成



学修者本位の教育の実現①

汎用的能力の設定と 獲得実感の可視化

本学では、2022年度入学生から全ての学 生に身につけて欲しい6つの汎用的能力 を「宇大スタンダード」として定め、これを ベースとして、専門教育を通じた実践的で 専門的な知識・技能を獲得させる教育課程 を編成し、幅広い教養と行動的知性を備え、 未来の社会を拓き支える人材を育成して います。

「宇大スタンダード」で定める6つの汎用的能力

<論理的思考力> 筋道を立てて論理的に物事を考える力。

<情報活用力> 情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力。

く 表 現 力 > 感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・印象的なものとして伝える力。 < 学 修 力 > 一人称で物事を捉え自ら行動し、進んで新しい知識・能力を身に付けようとする

力。変化に対応し、自らを変えようとする力。 < 協 働 力 > チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力。多様な人々との繋が りや協働を生み出す力。

<課題解決力> 多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向 けた計画を立案し、自律的に取組む力。

学修の質や修学環境の継続的検証

> 宇大スタンダードの獲得状況をはじめとした学修の質の状況や、修学環境の満足度等は、1年次生と3年次生に対し毎年行う「学生総合調 査」や、卒業・修了時に行う「卒業・修了時調査」、卒業・修了後3年目に行う「卒業・修了生調査」等によって把握し、これを分析することで検 証しています。これらの結果は、教学IR(Institutional Research)レポートとして本学のホームページ上で公開しています。

データでひもとく字都宮大学 ・宇大スタンダート*の獲得度【宇大スタンダート*獲得実感】 **UUIR-Report** 2022年度1年生 https://www.utsunomiva-u.ac.ip/outline/plan/uuir-report.php 2024年度3年生 3年次 2年次 **4**_{年次} 卒業·修了後 3年 年次 各をかについて 「何わっている」「ある程度調むっている」と 日本した学生の報告 学生総合調査 学生総合調査 卒業·修了時調査 入学満足度·学生生活実態 - 抑微力 表现力 教育満足度 1年次から美い獲得実感があり。 単に能力が申びている。 能力・知識の変化(宇大スタンダード獲得度等)と実践性 設備・学生サービス満足度



宇都宮大学の

学びのカタチ

2024 ► 2027



宇大スタンダードの概要をリーフレットにまとめ、 1年生全員が履修する「新入生セミナー」で周知し ています。

宇都宮大学は、

ょる宇大スタンダードと、入学したすべての学生が

専門分野に関する知識・技能を獲得した上で6つの力からなる宇大スタンダードと、

卒業できるように教育を行います

のもと、汎用的能力である「宇大スタンダード」を定めています。

みなさんは、ここに記されている力を獲得することを常に意識しなが ら、宇大での 4 年間の学びをスタートさせましょう。その上で、授業以 外にも様々な経験を積み、社会に力強く歩み出していって欲しいと願っ ています。

みなさんが大学を卒業した後に活躍することになる社会では、多種多

様な力や知識・技能、さらには教養や知性が必要になります。宇都宮

大学では、これらの中から特に重要と思われるものをしっかりと身につ

けてもらうために、学位授与の方針である「ディブロマ・ポリシー (DP)」



字都宮大学の教育目標

1 基価教育を出発点として、即代社会に必要な汎 用的能力(字大スタンダード)を育成します。 2 専門教育を通じて、実践的で専門的な知識と技 節を演奏します。

学修機会·活動経験

3 それらのふたつを有機的に結びつけた4年一貫 教育により、構広い教養と行動的知性を構え、 来来の計画を振り古りる人がを存成します。

DP

全学共通の ディブロマ・ポリシー (DP)

字都宮大学は、教育目標に定める幅広い教養 と行動的知性を備えた人材を育成するために、 所定の期間在学して必要な単位を取得し、「字 大スタンダード」に定める汎用的能力と、所属 学部において定める専門分野に関する知識・ 技能を確得した者に学位を授与します。

字大スタンダードの6つの力

「宇大スタンダード」は、宇大での 4 年間 の学びを通じて整得すべき 6 つの汎用的能 力を登録しています。これらの汎用的能力 は、大学での学びに留まらず、産業や社会 生活の中でも活用されることが期待されて



基盤教育から始まる宇大での学び。

大学での学び方を確実に身につける。

大学での学びとはどのようなものでしょうか。基盤教育を通じて、高校 までの学びと大学での学びの違いを理解し、自分の学びを自分自身で コントロールできるようにしましょう(学修力)。その際には、主体的に 興味関心の幅を広げ、新たな知の世界へと踏み出すことで、自分の強 みや足りないものを強く自覚することが重要です。何を学びたいのか、 何を学ばなければならないのかを深く理解することが、自身の学びを コントロールすることへとつながっていくはずです。このようにして身に つけた学修力は、4年間の学びの強力な原動力になります。

1 年次



〈学修力〉

一人称で物事を捉え自ら行動し、進んで 新しい知識・能力を身に付けようとする力。 変化に対応し、自らを変えようとする力。

専門分野の学びを本格的に始める。

社会を理解し、社会に発信する力を身につける。

学年が進むと、専門分野に関する深い学びがスタートします。1年次で培った学修力を 発揮し、学問の世界や世の中で起こっていることについて主体的に情報を集め、知識 を身につけていきましょう(情報活用力)。情報や知識をインブットするだけではなく、 それをもとに粘り強く思考を巡らせ(論理的思考力)、自分の考えを発信していくことも 重要です(表現力)。こうした姿勢は、社会に出た後にも強く求められます。

2 年次

何に選択し、透明する力。



〈情報活用力〉 情報及び情報手段を主体

〈論理的思考力〉 物事を考える力。

3年次

〈表現力〉 感情や思考などを伝達可能 た形式に奔し、祈服的・印 急的なものとして伝える力。

4年間の学びの集大成としての卒業研究。 大学生活をふり返りその後のキャリアに活かす。

最終年次では卒業研究に取り組みます。その通程で、多くの仲間たちと支え合いながら学 びを進めていくことの重要性に気づくでしょう(協働力)。さらには、卒業研究を通じて難問 と実験苦悶した経験は、その後のキャリアで直面するであろう様に立ち向かう際に大きな自 信を与えてくれます(課題解決力)。就職や大学院進学など、どのような道に進んだとしても、 宇大スタンダードの6つの力と専門分野の知識・技能がみなさんを支えてくれるはずです。

4年次

就職・大学院



や焼煙を生み出すた。

チームの中で協力しながら 自分の役割や責任を果たす

〈課題解決力〉

多面的な視点から期状を分析 こ。目的や課題を明らかにす か立奪し、前後的に取組む力。

ボルインフェットでは、キメスタンダードの 4 つの力をその結婚すべに別につかて歌しいかというイメージを示しています。 味えば、「中義力」は「中 年内の信義で集立所に対して歌しいさとを言いていますが、2 年々以降に「中義力」が不置であるということを言いませんのではありません。 主人 「福養力」は 4 年 元の幕に記されていますが、2 年々以降に「平義力」が不置であるということを言いません。 また、「福養力」は 4 年 元の幕に記されていますが、4 年 元の章に記されていますが、4 年 元の章に記されていますが、6 年 元の章に記されていまかりと承認し、平日を認めるとかに「北上力」



未来を切り拓く人材の育成



学修者本位の教育の実現②

ルーブリックによる宇大スタンダードの獲得状況の可視化

>ルーブリックは、学修上の目標の達成度を判断するため、評価の観点と、観点の尺度を数段階に分けて文章(記述語)で示した評価の基準 から構成される評価ツールです。学修活動のプロセスや、成果物に含まれる思考力や表現力、理解の深さや質を捉えたいときや、実験・実 習・実技を通して学生のパフォーマンスを観察し、そこに現れる様々な技能を捉えたいときに活用することができます。

本学では、「ルーブリック等による多面的評価の実施方針」を定めるとともに、「ルーブリック評価ガイドブック」を作成して、まずは基盤教育 科目からルーブリック評価を導入し、専門教育科目へと順次広げていく予定です。

ルーブリック活用の手順

ルーブリックの提示

初回授業で提示

ルーブリックを理解

初回授業

ルーブリックを 用いて自己評価や

学生同士の ピア評価を実施

教務ポータルを活用

授業の中盤

教員の取組

最終的な評価を実施

通常の評価も加えた総括的評価

学生の取組

最終的な自己評価を行い 授業を通じた学修成果を把握

15回目の授業終了時

●ルーブリックによる形成的評価(フィードバック)●

評価やフィードバックの情報を蓄積し、 次年度以降の授業で活用

意義と活用方法を 十分に説明する

ルーブリックを通じ到達 目標を明確に意識させる

▶学生と教員とで 到達目標を共有する ルーブリックを 用いた評価を行って 今後の課題を 自覚させる

教務ポータル等を活用し 適宜フィードバックを行う ルーブリックの効果検証

- ・到達目標の達成に寄与したか
- ・到達目標の達成状況を的確に 評価できたか

ルーブリックによる形成的評価(授業の中盤における教員か らのフィードバック)は、現時点での到達度と今後の課題につ いて、大まかな目安を示す。この目安をもとに、今後の授業 で具体的に何をすべきか自ら考える。加えて、教員や他の学 生からの助言も受ける。

教務ポータル等で、学生同士で学び合い、助言し合う環境を 用意するのが望ましい(教員からだけでなく、同じ立場の学 生からもフィードバックが得られる環境を用意する)。

ルーブリックは、学生の様々な学びの成 果を効率的に評価し、一貫性のある フィードバックをすることができる。ただ し、ルーブリックの各観点・基準の意味を 学生に十分に説明する必要がある。

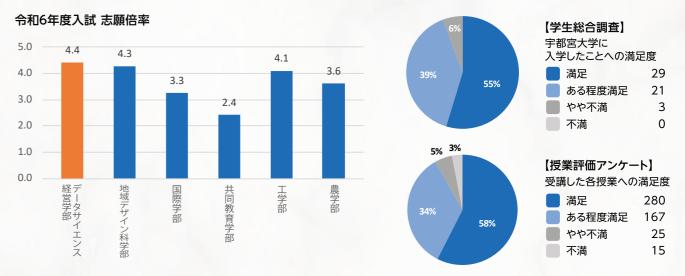
せるという方法もある。

各回の授業で、「今回の授業では、ルー ブリックのこの観点が重要になります| と説明することで、各観点を常に意識さ

時代を先導する教育組織・プログラムの創出

データサイエンス経営学部の設置

> 2024年(令和6年)4月に本学6つめの新学部として「データサイエンス経営学部」が設置され、男子39名、女子20名の計59名が第一期 生として入学しました。データサイエンス経営学部の第一期生入学試験においては、志願倍率が一般選抜前期日程が2.75倍、一般選抜 後期日程が14.25倍、総合型選抜が2.57倍で合計が4.4倍と、近隣他大学や宇都宮大学の他の学部と比べても高い倍率となりました。 これは、地域社会のニーズに即した新学部への関心の高さがあらわれた結果と言えます。また、第一期生の1年前期終了時の学生総合調 査、授業評価アンケートを見ると、宇都宮大学に入学したことへの満足度および受講した授業への満足度について、「満足」「ある程度満 足」の割合が90%を超えており、地域社会のみならず、学生のニーズにも高い水準で応えられていることがわかります。



大学院新専攻の設置と農学部の改組

- > データサイエンス経営学部を卒業した学生がさらに知識を深化させるため、大学院修士課程に新たな専攻を設置することを構想していま す。当初はデータサイエンス経営学部第1期生の卒業時期に合わせた令和10年度の設置を目標とする予定でしたが、地元企業の要望や急 激に加速するデータサイエンティストの需要に応えるため、予定を2年早めて令和8年度に設置できるよう準備を進めています。また農学部 においても、SDGsやスマート農林業といった近年急増しているニーズに応えられるよう、カリキュラム編成などを通して対応してきました が、教育体系を抜本的に再構築し、実社会で活躍できる人材を育成する教育プログラムを実施するため、学部の改組を予定しています。
- >これらの試みについて、詳細を次頁でご紹介します。

学生の多様なニーズへの支援の充実

学生相談室の再編

>従来、学生相談室のほか、指導教員や事務窓□など、様々な相談窓□を用意し学生からのメ ンタル相談を受け付けていました。これは相談受入の間口を広くとるというメリットがある一 方、どこに相談すれば良いかわかりづらく学生が躊躇ってしまうという課題を抱えていまし た。そこで、これまで学生相談室(学生支援課)と保健管理センターとで別々に雇用していた カウンセラーをまとめて雇用し、保健管理センターの精神科医を室長とした学生相談室を再 編しました。これにより窓口の一元化を行い、より学生が相談しやすい体制へとリニューアル したことにより、峰キャンパスで週3回、陽東キャンパスで週2回の定期的な相談をはじめ、間 口を広く保ちながら分かりやすい相談体制を整えています。





大学院新専攻の設置



>宇都宮大学では当初、データサイエンス経営学部の第一期生が卒業する令和10年度に合わせて情報工学・データサイエンス・経営情報 学を学ぶことのできる大学院修士課程の新専攻を設置する予定としていました。しかし、地元企業を始めとした地域からの要望に対応す べく予定を2年前倒し、令和8年度に新専攻である「総合情報学専攻(仮称)」を設置する準備を進めています。



総合情報学専攻(仮称)で養う[4つの力]

"Four Strengths" Cultivated in the Department

この専攻では、情報工学 / データサイエンス / 経営情報の専門知識と技術を身に付け、企業や行政等において DX を推進し、地域の課題解決を牽引する高度デジタル人材を育成します。

情報基盤力

情報工学の基本的かつ普遍的な知識・技術を深く身 に着け、関連する応用構想、設計、研究、製作等に広 く精通し、その知識・技術を自律的に実践できる力



マネジメントカ

課題やリスクの特定と戦略プランの策定に必要な体 系的な知識と判断力を有し、組織やプロジェクトにお いてリーダーシップを示すことが出来る力

データサイエンスカ

科学的で根拠に基づく課題発見・解決を行うために、数 学、統計学、情報学の高度な知識や機械学習・AIの最 新技術を駆使し、データから価値のある情報を抽出す ることにより、分析対象の本質を数理的に理解する力

社会実装力

情報工学、データサイエンスと経営学の高度な知識 と技術を、課題解決や意思決定、価値創出に活用す ることによって社会に実装する力

🏎 カリキュラム構成



データサイエンス

情報丁学

各学位プログラムの特徴

Features of each degree program

情報工学プログラム

コンピュータアーキテクチャ、アルゴリズム、通信、 データ処理などの情報の高度な知識と技術が修得で きるプログラムです。DXの推進において、各種課題 をIT技術により解決し、企業のビジネス戦略に基づ いた最適なシステムを設計できる高度IT人材を育成 します。

|| データサイエンスプログラム

数理・データサイエンス・AI の高度な知識と技術が修 得できるプログラムです。DXの推進において、デー タを活用した業務変革や新規ビジネスの実現に向け て、データを収集・解析する仕組みの設計・実装・運用 を担う高度データサイエンス人材を育成します。

経営情報学プログラム

経営情報学の高度な知識と技術を修得できるプログ ラムです。DXの取組みにおいて、ビジネスや業務の 変革を通じて目的を設定し、関係者のコーディネート 及び協働関係の構築をリードすることによって目的を 実現するビジネスアーキテクト人材を育成します。

農学部の改組(令和7年1月1日時点)



>近年、データサイエンス・経営分野のみならず、様々な分野で変革が迫られています。そこで、宇都宮大学ではデータサイエンス経営学部 の設置、大学院新専攻の設置に加え、農学部についても令和8年度に改組する準備を進めています。1922年に宇都宮高等農林学校とし て設置され、2022年に設立100周年を迎えた伝統ある農学部ですが、小規模な組織改編を経つつも、近年は抜本的な改組が実施され ていませんでした。高校生や地域産業界のニーズを調査したアンケートにより浮かび上がった現在の農学部とのミスマッチを改善し、100 年を超える伝統を守りつつより魅力ある学部へ生まれ変わります。

高校牛のニーズ

食品、発酵、微牛物、化粧品等 新しい経済学、国際、食と農の連携等 生命科学、植物、動物、昆虫等

環境、気候変動、生態系保全等

令和5年度アンケート結果 (回答数:1320人)

地域産業界のニーズ

DX、SDGs、スマート農林業を修得した人材

コミュニケーション能力、課題発見解決能力のある人材

食品関連産業で、食品や食材の機能性向上の創出に資する人材

行政、農業関連団体、企業で食と農の視点から持続可能な社会を導く人材

バイオ系・農業系の企業で、先進的な技術開発に資する人材

技術系公務員や企業で、環境と調和した国土基盤の創出に資する人材

令和5年度アンケート結果 (回答数:67団体) 等

新たな4学科により構成される未来農学のカリキュラム

フロンティア食品科学科

食材や食品の機能性向上を創出

さまざまな生物資源の持つ嗜好や健康に関わる機能、および加工 による機能強化と持続的活用に関する知識や技術を学び、持続可 能で健全な食の推進に資する取り組みができる人材を育成 Keywords:食品加工・再資源化、発酵、微生物利用、食の機能、食の安全

生物生産イノベーション科学科

生物生産に関わる革新的な技術の創出

生物生産に関わる知識や技術を学び、革新的な技術を生み出し、 社会に大きな変化をもたらす取り組みができる人材を育成 Keywords:生命科学、植物生産、動物生産、生産環境

環境システム科学科

持続可能な流域圏の生産基盤をデザイン

持続的かつ合理的な国土の環境基盤デザインに関わる知識や技 術について学び、農林業のGXやDXなどの取り組みに貢献するこ とのできる人材を育成

Keywords:森林、農地、土壌、水、生態系、気象、防災、機械、スマート農林業、 農林業データサイエンス

エコロジカル社会経済学科

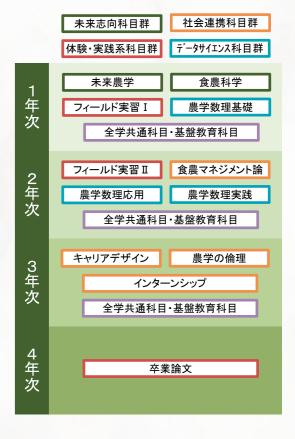
環境と社会と経済の持続可能性を目指す

食の生産と消費の関係や、食の生産基盤である農林業、農山村か ら消費地までを対象領域としながら、環境と社会と経済の持続可 能性を実現する全体社会を導くことのできる人材を育成

Keywords:経済、環境、社会、政策、流通、消費、循環、共生

カリキュラムに学部共通科目として 農学リテラシー科目を新設

農学及び関係領域における将来の展望や技術的 進歩、社会的変化に焦点を当てた学びによって、未 来に希望を持って多様な社会的要求にも柔軟に対 応できるしなやかな人材を育成





持続可能な社会の実現に資する研究



研究力の強化と研究支援体制の整備

アグリバイオ産業に資する研究拠点化を目指した植物分子農学分野の強化 - 宇都宮大学野牛イチゴプロジェクト-

>栃木県は、54年間連続(2021年生産時点)でイチゴの収穫量日本一を誇る全国有数のイチゴ生産地です。その栃木県に立地する本学では、野 生イチゴに秘められた"力"を解明し、イチゴ栽培や保護に役立てる「宇都宮大学野生イチゴプロジェクト」を2023年度から本格始動しました。

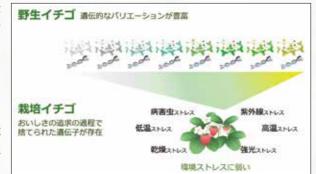


> 普段流通している栽培イチゴは、野牛のイチゴから育種され作られました。育種は「長所を伸ばし・短所を切り捨 てる|行為ですが、必ずしも狙った長所だけ・短所だけを選ぶことはできず、「切り捨てられてしまった|遺伝子が 出てきてしまいます。宇都宮大学野生イチゴプロジェクトチームでは、このような「育種の過程で切り捨てられて しまった有用な遺伝子」を持つことが期待される野生のイチゴを日本全国の自生地から収集し、病害虫への耐性

を高める遺伝子や、未知の遺伝子の機能を最 先端の手法を用いて明らかにし、今後のイチ ゴ育種や栽培技術の発展に役立てるための 研究を行っています。

野生イチゴの可能性に賭ける

>栽培イチゴは、おいしさや見た目の美しさを追求したあまり、様々な環境 ストレスに弱い傾向があります。遺伝的多様性が豊富な野牛イチゴに立 ち戻り、栽培化に役立つ情報を得るために、以下の研究を進めています。



病気の抵抗性遺伝子をつきとめる

>遺伝的多様性の高い野生種は、病害への抵 抗性が栽培種よりも高いことが期待され、 中でも生産者を悩ませる炭疽病の菌耐性 遺伝子を検出する分子マーカーの開発を進 めています。



イチゴに秘められた有用成分の分析

>野生イチゴに含まれている可能性がある未知 の健康有用成分、すなわち機能性成分の解析 を試みています。これまでに、ポリフェノールの 1つであるエラグ酸に加え、イチゴでは初めて となる他の機能性成分も検出されています。

野牛イチゴのゲノム配列解析



野生イチゴの地理的分布調査

>イチゴの野生種が持つ遺伝的変異の中で も特に栽培化に有用な変異を明らかにする ことを目的として、日本各地から採取した野 生種を解析して地理的分布の把握を行って います。



モデル植物としてのイチゴ研究

>野生イチゴを用いて遺伝子組換えやゲノム 編集を用いた機能解析を行い、開花、休眠、 四季成り性など、様々な形質に関わる遺伝 子の特定に挑戦しています。



>野生種集団においてどれくらいの遺伝的変 異が存在するかを明らかにするため、日本 各地で採集した野生イチゴを用いてゲノム リシークエンスを行います。



8倍体栽培イチゴ

地域発オープンイノベーションの先導

産業界、地域社会と連携した、IoT、ロボット技術などのテクノロジーの実装、普及 ーロボティクス・工農技術研究所(REAL)を中心としたテクノロジーの社会実装-

>農学と工学の融合によって新たな技術や産業の創出をめざす産学官の研究開発プロジェクトの拠点である「ロボティクス・工農技術研究所 (REAL) | では、進行している研究プロジェクトについて、社会実装に向けた成果の達成度合いを「イノベーション達成レベル」(4段階)として定 義し、これに基づいた社会実装へのロードマップを作成して実践しています。イノベーション達成レベルの「レベル4」は、大学発ベンチャーの株 式公開(インパクトあるイノベーションの達成)、研究成果による持続的ビジネスが可能、実用化・商品化、の何れかを達成したものと定義されて おり、それらを達成した実験をはじめ以下のような研究を行っています。

農業支援ロボット (イノベーション達成レベル4)

>イチゴ収穫ロボットの開発で得た要素技術を活用した移動ロボット プラットフォームを開発しました。本移動ロボットは、部品点数の削 減、新たな部品やセンサーの開発などにより、低コストで耐久性・汎 用性の高い車体とするために改良を重ね、屋外用(4輪駆動)と屋内 (ハウス)用の2車種を実用化し大学発ベンチャーにより販売してい ます。



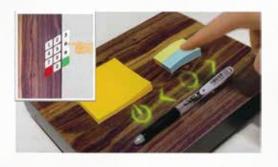
LRTを活用した実証実験

- >農業支援ロボットに関する技術をさらに発展させて開発されたのが物流支援ロボットです。DaaS(Data as a Service)として地図データの提供 と低コストのセンシングユニットの開発を行い、搬送ロボットを用いて物流の自動化を目指します。いわゆる「2024年問題」をはじめとした、配送 人材の不足から生じる物流業界の諸問題を解決するための一助となり得る研究に対し、広く注目が集まっています。
- >物流支援ロボットがターゲットとしているのは、都市郊外部における小規模の物流で す。人口密度の高い都市部には店舗が多く運送サービスも充実しているため物流支 援の必要性が薄く、一方で人口密度の低い山間部等ではドローンによる配達が有利 です。安全性と小回りを両立した物流支援ロボットは、このどちらにも属さない都市郊 外部における物流について、他の配送サービスにない強みを持っています。
- >これらの強みを最大限に活かすため、2024年6月には、LRT(2023年に宇都宮市-芳 賀町に開通した次世代型路面電車)に物流支援ロボットが自ら乗車し、宇都宮駅前か ら約14km離れた芳賀町まで物品を配達する実証実験が行われました。ロボットと公 共交通機関を組み合わせた国内初となる実験が話題を呼び、全国・地域を問わず多く のメディアで報道されることとなりました。



空中ディスプレイ(イノベーション達成レベル4)

- >空中ディスプレイは、広い範囲から光を集束させることで、何もない空中に映像を表示 する技術です。本プロジェクトで開発した技術は、再帰反射による空中結像(AIRR)と 呼ばれるマジックミラーのような半透明鏡と交通標識に使われるような反射シートを 使って光源の光を空中に集束させることで、SF映画「スターウォーズ」に描かれてきたよ うな空中に浮遊する映像を、特殊な眼鏡を装着せずに広い範囲から観察可能です。さ らに、センサーを用いて空中の映像を手で操作することが可能となります。
- >本空中ディスプレイ技術は、自動車向けのサプライヤーメーカーとの間でタッチレス操 作パネルの共同技術開発、総合電機メーカーによる空中タッチディスプレイの商品化 に繋がっています。





対話から生み出される社会共創



地域教育界の先導

共同教育学部における教員志望学生支援

>近年、折に触れ報じられているとおり、全国的に教員を志望する学生の人数が減少傾向にあり、2022年には全国の公立学校で2.558名 の教員が不足しているとの統計が文部科学省より公表されました。栃木県においても例外ではなく、文部科学省調査では20校の公立学 校で22名の教員が不足しています。また近年の栃木県公立学校新規採用教員選考試験においては、受験者倍率が約3.0~4.5倍と過去 に例のない低い値で推移しています。

【参考:「教師不足」に関する実態調査(文部科学省・令和4年1月)】https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/mext_00003.html

- >このような状況に歯止めをかけるべく、宇都宮大学では以下のような施策を実施しており、第3期最終年度である令和3年度は教員採用
- 試験合格率が61.8%と落ち込みつつあったところ、令和5年度 は79.1%まで上昇しました。
- ・共同実施WGおよびICT専門委員会を設立し、群馬大学との 遠隔授業を補助
- ・必要数が多すぎると言われていた卒業単位を155単位から 140単位まで削減・精選しつつ、各教員がそれぞれの担当科 目に集中できるよう指導体制を改善
- ・栃木県教育委員会採用担当者を招聘し、臨採説明会を実施





地域の学び直し拠点機能の拡充

宇大未来塾に「データサイエンス・DXプログラム |を新設

>データサイエンス人材ニーズの急激な高まり高まりを受け、データサイエンス・DXについて学ぶことができる機会を可能な限り提供するこ とが大学として地域社会に貢献できる手段であると考え、社会人向けのリカレント教育プログラムである宇大未来塾に、「データサイエン ス・DXプログラム」を新設しました。また、学校教育法の定めに基づき宇大未来塾のプログラムを単位授与可能な「履修証明プログラム」に 編成し、本学が令和8年4月に設置を予定している新専攻「データサイエンスマネジメント専攻(仮称)」において入学前に既修得単位として 認定できる仕組みの構築するため準備を進めています。このような大学院教育まで一貫した学修体制を整えることにより、既存の3プログ ラム(次世代経営マネジメントプログラム、志士プログラム、ニューフロンティアプログラム)と合わせて、経営・データサイエンス・DXを学び たい社会人を幅広くサポートします。DS・DXプログラムには第一期生が39名参加しており、既存の各プログラムと比較しても非常に地域 の関心の高いプログラムとなっています。

次世代経営 マネジメント プログラム









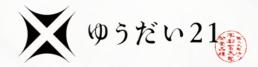
łかな教育研究フィールドの活用と社会還元

優良食味米「ゆうだい21」の戦略的普及

>ゆうだい21は、本学が一般の水稲栽培農家向けに普及を目指して開発した、日本初の国立大学生まれのお米です。2010年に品種登録 されて以来、日本各地の様々な牛産者によって栽培され、毎年数多くの品評会で最高賞を受賞するなど、その味と品質は高い評価を得て います。これらの実績によって、ゆうだい21は、これからの有力品種として業界の注目を集めています。詳しくは、次頁でご紹介します。



優良食味米「ゆうだい21」の戦略的普及



食味性質

ゆうだい21の開発

>1990年宇都宮大学農学部の前田名誉教授が、のちのゆうだい21につながる稲穂の株を発見 しました。その稲穂は株が極めて大きく雄大な姿かたちをしていたことから、前田名誉教授は直 感的に品種としての有用性を感じ、この株を継続して選抜試験にかけることを決めました。 そして大学での研究を重ねた2010年、農林水産省に正式に品種登録され、発見から20年の歳月 を経て新品種「ゆうだい21」が誕生しました。

宇都宮大学調べ

ゆうだい21の特徴

>「うまみが強く、バランスが良い」「噛むほどに甘味を感じられる」との味の評価と、粘り気が強い のが特徴です。また、冷めてから6時間後の硬さは炊飯直後と変わらないというデータがあり、 冷めてもおいしいお米との評価も高いことから、一部大手コンビニエンスストアのおにぎりや お弁当でも使用されています。

ゆうだい21の食味評価の実績

>日本各地で様々な生産者が栽培したゆうだい21が2014年以来、食味品評会において、毎年 最高賞を受賞するなどの高い評価を得ています。国内最大級の品評会となる「米・食味分析鑑 定コンクール」の第26回大会(2024年)では最高賞である国際総合部門金賞で18点中12点 が選ばれ、他の品種を圧倒する成果をあげました。

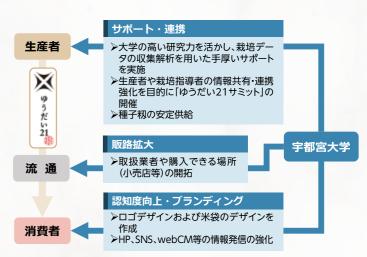
これまで受賞占有率で常に1位だったコシヒカリを初めて上回った前回大会の快挙に続き、優 位性がより確かなものとなりました。名実ともにおいしいお米の代表格として認知された証とも

言えます。また、隣県の茨城県では「いばらき米の極み頂上 コンテスト」において4大会連続でゆうだい21が1~3位を 独占しており、ゆうだい21の品質の高さと、酷暑の中でも 栽培可能な適応性を証明しています。

このような実績から、昨今メディア露出も着実に増え、 認知度も向上しています。

ゆうだい21戦略的普及プロジェクト

>前述したように優良食味米として近年さらに評価が高まっ ているゆうだい21を普及させるため、本学では戦略的普 及プロジェクトを立ち上げています。本学の推進体制を強 化し、生産者へのサポート・連携体制を構築するとともに、 販路拡大や認知度向上を推進していきます。以下はその 一例です。



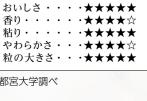
>ゆうだい21広報ポスター制作プロジェクト

新米の時期に合わせて、本学開発米「ゆうだい21」を広報するためのポスターを制作しました。 ゆうだい21のおにぎりを食べる子どもの写真をポスターにすることとし、本学関係者を対象に 「おいしそうにおにぎりを食べる」というテーマでキッズモデルを募集しました。

秋晴れのもと、ゆうだい21生誕の地である農学部附属農場の黄色く実ったゆうだい21の稲穂 の側で、キッズモデルがおにぎりを食べる様子を撮影しました。完成したポスターは、JR宇都宮 駅に掲示されるとともに、様々な場面で利用していきます。

>ゆうだい21新米フェア(秋の収穫祭)

ゆうだい21の新米出荷時期を迎えるにあたり、ゆうだい21の栃木県内生産者と栃木県内外の 流通・観光飲食等事業者の方々の交流の場として、ゆうだい21新米フェアを開催しました。本 フェアでは、令和6年産米の動向やゆうだい21の生産状況などの情報共有を行うとともに、新 米を試食しながら情報交換や商談を行う機会を創出しました。





宇都宮大学生まれのお米 ゆうだい21





学内のコンセンサスに立脚した組織運営



ステークホルダーを巻き込んだ大学経営モデルの構築

ステークホルダー会議を中心とした成果の検証、計画の見直しサイクル

- >宇都宮大学は、真の経営体として多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた信頼関係を構築し、開かれた大学運営と社会的価値の向上を実現するため、2020年度に宇都宮大学ステークホルダー会議を設置しました。本会議は、様々なステークホルダーから幅広い意見を聴取するという趣旨から、議決権を有する形態とせず、また、会議開催方法も、全委員が一堂に会することを要せず、検討内容によってメンバーを決定するフレキシブルな会議体として運営しています(下図参照)。
- >2023年度は、テーマに応じて次のような会議を開催し、様々な意見や要望、期待などが寄せられました。

宇都宮

例A 中期目標·計画、価値向上 組織評価 委員 字都宮 大学









アクションプラン 2022-2027達成 ロードマップに基づく 2023年度の取組と 成果について 経済界、産業界、OB・OGを中心としたメンバーにより、アクションプラン2022-2027達成ロードマップに基づく2023年度の取組と成果について、達成指標(数値目標等)の達成状況などを踏まえて報告し、意見等を聴取しました。外部評価委員からは、新学部「データサイエンス経営学部」の設置への期待はもちろん、学部独自の広報への取組や地域社会へ貢献する人材を育成するカリキュラム構成、入試倍率の上昇に賞賛の声をいただきました。一方、取組に遅れが見られる計画や明確な成果が現れていない計画については、改善策や今後のスケジュールの明確化の必要性を指摘する意見が出されました。



入学者選抜結果と 本学の特徴的な 教育活動について 栃木県内の高等学校長を中心としたメンバーにより、入学志願者の経年変化や、他大学との比較データに基づき、 県内高校生の動向などについて意見交換を行いました。また、本学の学生支援体制について説明を行い、受験者を 輩出する高校として独自の目線から助言をいただきました。データサイエンス経営学部の設置に伴い変更された各 学部の定員についてのご意見や、受験窓口の体制についてのご意見をいただき、本学における対高校・対受験生向 けの運営体制を再確認する非常に有益な機会となりました。また、宇大スタンダードの内容と学生支援体制につい て明記したルーブリックを入学生全員に配布している取組について大きく評価いただき、こうした取組をより広く発 展させるための方針を検討しました。

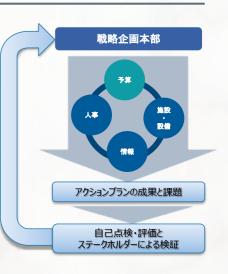
アクションプラン 2022-2027における 地域に資する 取組について 宇都宮大学の卒業生のうち、企業経営者や役職者をメンバーとし、データサイエンス経営学部の新設に対する産業界からの期待感をはじめ、本学の教育活動・研究活動・社会連携活動について幅広く意見を交換しました。データサイエンス経営学部については、文理を問わないDX人材やデータサイエンス人材を育成する試み、および3年次から開始される社会実践実装演習について高い評価をいただいた他、より早いうちから実践力を磨く授業を増やすべき、データサイエンス系の授業をより広く全学的に実施すべきとの意見を頂戴しました。その他の議題については、大学のスタートアップ企業支援等といった地域共創について、企業経営者ならではの視点から助言をいただき、今後、教育・研究を通して本学がより広く地域社会に貢献するための方策を策定するにあたり非常に有意義な機会となりまし



安定した財務基盤の確立

戦略的な資源配分体制の構築

- >宇都宮大学では社会の流れや大学を取り巻く変化に柔軟かつスピーディーに対応するため、執行部で組織する「戦略企画本部」を設置しています(詳しくは、32頁参照)
- >戦略企画本部は2023年度から、経営の4大資源であるヒト(人事)、モノ(施設・設備)、カネ(予算)、情報を一元的に掌理することで、有機的な大学経営の実現に資する組織へと再構築しました。
- >特に予算は、他の資源と密接に連動し、これらの資源の根幹を成すものであることから、アクションプランの達成のために戦略的な配分が必要不可欠です。また、投資による効果を自己点検・評価し、ステークホルダーからの外部評価を受けて検証することで、強みの伸長と課題への対応に最大限の効果を生み出すための好循環が確立されます。これらを踏まえ、ステークホルダーの理解を得て新たな投資を呼び込むことで、安定した財務基盤の確立を目指します。



宇大倶楽部による継続寄付者の増加

- >毎年1万円以上、継続して寄附いただける方を「宇大倶楽部」の会員とし、様々な特典をご用意しています。宇大倶楽部について、詳細は38頁に記載しています。
- >2023年12月には宇大倶楽部への入会を促進するため、新規入会また は寄附金の増額を行った方に対し、宇都宮大学にゆかりのある製品を 返礼としてお渡しするキャンペーンを実施しました。これらの取組により、 宇大倶楽部の会員は中期目標期間(最終年度:令和9年度)における目 標数である180名を超え、更に多くの方に寄付をいただいています。





働き方改革の推進によるワークライフバランスの実現

DE&I推進に関する取組

>宇都宮大学では、2011年度の「宇都宮大学男女共同参画宣言」の制定や、2012年度に設置した「男女共同参画推進室」など、学内での取り組みを継承し、さらに発展させるため、2024年7月に「ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公正性)、インクルージョン(包摂性)」を積極的に推進する「宇都宮大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)推進宣言」を発表しました。この宣言は、全ての多様な構成員が互いを尊重し合い、協働し、自分らしく輝ける大学づくりを目指すものです。

また、これまでの取り組みを総合的に発展させ、より一層DE&Iに基づいた環境を育み、多面的に推進するための組織として、令和6年度に「DE&I推進センター」を設置しました。このような取組により、多様な学生や職員がワークライフバランスを実現しつつ学業・業務に専念することができる環境の実現を目指しています。

学長

学外

DE&I推進センター

学内

男女共同参画推進室

障がい学生支援室

DF&I推進センターを中心とした休制図



DE&I推進センターキックオフシンポジウム

ACTION PLAN & FINANCIAL

宇都宮大学の環境方針

基本理念

地球温暖化をはじめとして、資源エネルギーや生物多様性など地球環境保全の問題は、人類が直面している大きな課題となっています。自然と豊かな環境の保全を通じて一人ひとりが幸せを実感できる生活をつくりあげ、次世代に継承させる社会の構築がいま求められています。

本学は、「地域の知の拠点」として、また、広く社会に貢献すべく開かれた大学として、社会の要請に応じた人材の養成はもとより、持続可能な社会の形成を促す教育研究や環境整備等を通じて、環境保全に努めます。

基本方針

● 持続可能な社会形成を促す教育研究の推進

低炭素社会で求められる環境問題に関するグローバルな視野と実践力とを養うための教育を進めます。また、持続可能な社会の形成を促す研究を推進し、その成果を社会に還元します。さらに、学生に対する環境問題への意識啓発を進めるため、環境改善学生サポーターなど学生参加型の学生支援を積極的に進めます。

2 地域の環境保全

地域の環境保全に関する要請を踏まえた産学連携等の推進により、地域社会に貢献します。

3 環境負荷の低減

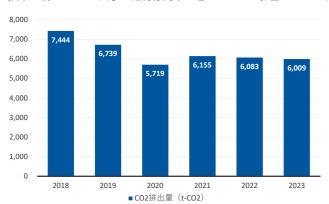
地球温暖化対策の推進や、省エネルギー対策に向けて、温室効果ガス排出抑制等の環境配慮行動を積極的に推進します。また、省資源、資源の循環利用、グリーン購入の推進、化学物質管理の徹底等、大学運営における循環型社会構築への配慮に努めます。

4 環境情報の発信

環境方針、環境報告書、環境改善活動等の自己点検・評価等の環境関連情報を、大学ホームページ等を通じて、学内の教職員・学生や一般社会へ積極的に公開します。

CO2削減

本学では、2030年度のCO2排出量を2013年度(6,548t-CO2)の51% 減である3,209t-CO2とすることを目指しています。その結果、CO2排出量は2018年度をピークに減少し、2018年度から2023年度では、1,435t-CO2の減少となりました。その要因として、照明器具のLED化、高効率の空調設備への更新、建物の複層ガラス化、太陽光発電設備の設置などの省エネ対策が挙げられます。また2023年に竣工した農学部附属農場は屋上にソーラーパネルを設置したZEB仕様の施設となっています。なお、2020年度においてはコロナ禍の影響によりオンライン授業が続いたため、大学の建物稼働率が落ちたことも影響しています。



廃棄物排出量の削減

資源物の分別の徹底、備品等のリユース活動等を積極的に行ったことで、 廃棄物の削減につながっています。

2019年度と比較すると可燃物およびペットボトルの排出量が増加傾向にありますが、マイボトル推進活動等をとおし、引き続き廃棄物排出量の削減に取り組みます。

寄附金の活用によるウォータースタンドの設置

SDGsの実践的活動を行う学生が学長ティータイムにおいて、キャンパス内のペットボトルの使用量削減を推進するために提案したウォータースタンドが、ご寄附により設置されました。峰町団地に11ヶ所、陽東団地に9ヶ所、松原団地に2ヶ所あり、多くの学

生が利用しています。マイボトル の持参により、ペットボトルごみ の削減や、環境意識向上に寄与しています。



設置されたウォータースタンド



エコボトル利用推進チラシ

(単位:kg)

年度	可燃物	不燃物	ペットボトル	計
2019	55,869	3,634	5,837	65,340
2020	44,333	3,166	3,289	50,788
2021	52,994	3,281	4,682	60,957
2022	58,887	2,780	2,796	64,463
2023	64.444	2.637	5.277	69.180

ミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際社会共通の目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標で構成されています。宇都宮大学では、SDGsの目標それぞれを達成するための取組を推進しています。

持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) とは、2015年9月の国連サ

宇都宮大学のSDGsの取組

SDGsの推進

宇都宮大学SDGs事例集・研究シーズ集

宇都宮大学が取り組んでいる様々な教育研究活動を、SDGsの達成に向けた観点で取り纏め、可視化した「宇都宮大学SDGs事例集」を2019年度から発行しています。また、2021年度からは、

SDGs事例集と研究シーズ集を統合して教育研究活動とSDGsの結びつきがより分かりやすくなるよう整理しました。これらの冊子により、広く宇都宮大学の活動を知っていただくとともに、目標達成に向

けて多くの皆さんとの連携を推進していきます。





SDGs事例集

SUSTAINABLE GOALS THE STATE OF THE STATE OF



研究シーズ集

教育面での取組

宇都宮大学のシラバスでは、すべての科目においてSDGsの各目標との関連性を確認することができます。学部の授業では、学生がSDGsに関する基礎知識を学び、今後の学修・研究の基盤とすることを目的とした1年次必修科目[SDGs入門]を開講しています。この科目は、全学部の教員が連携して行うオムニバス形式で、専門的な学びとSDGsとのつながりを学ぶ文理融合型の授業です。また持続可能な取組を推進する地方自治体の職員を講師として招聘するなど、学生がSDGsの社会的な位置づけを多角的に理解するための工夫を行っています。

大学院においては、2021年度に開設された地域創生科学研究科(博士後期課程)において、分子農学や光工学、ロボティクスといった、SDGs達成につながる科学技術イノベーション (STI for SDGs) の研究も活発化しています。専門領域の壁を越えた研究を推進し、分野融合的な知見の創出によって、持続可能で豊かな地域社会の実現を目指しています。



シラバス検索画面



宇都宮大学 農学部附属農場教育共同利用拠点

宇都宮大学は、多様化する社会と学生のニーズに応えるため、全国の大学を分野ごとに共同利用拠点として整備し、大学間で共同利用する取組をサポートする共同利用拠点制度に申請し、2010年度に認定を受けており、その後5年ごとに再認定を受けています。附属農場は豊かな自然に囲まれた広大な敷地に、作物(水稲、普通作物)、園芸(野菜、果樹、施設野菜)、畜産(酪農、肉牛)、農業機械、の各分野を充実した規模・内容・スタッフで展開する「分野複合型教育環境」を有しています。この環境を活かし、生命や環境と調和した持続的な食と農について体験的に学ぶ実習を行います。

2024年度には大学ごとのカリキュラム連携型として8大学・延べ580名を、個人公募型として11大学・延べ50名を受け入れて実習を実施しました。

海外実習・フィールドワーク等の実施

コロナ禍には制限されていた海外における実習やフィールドワークも徐々に再開されつつあります。一例として、2024年3月に国際学部・藤井広重研究室の学生たちが、エチオピア、アディス・アベバにてフィールドワークを行い、大使公邸、アフリカ連合、国連、欧州連合等を訪問しました。

アフリカ連合においては、紛争の最前線で平和と安全のために働く専門家と面談し、国連や欧州連合では、アフリカ域内での紛争に対し、アフリカ連合や当事国とのパートナーシップ形成について話を伺いました。さらに、アフリカの調査機関やアディス・アベバ大学の平和と安全保障研究所所長とも意見交換を行いました。



このように、宇都宮大学では国際的な視点からも平和の実現や人権の確立に向け多様なアプローチを実施しています。

















溝口 周二

冨田 哲夫

学長選考·監察会議委員名簿

副学長・学長特別補佐

氏名 加藤 紀弘

平井 英明

佐藤 隆

天沼 実

西村 訓弘

大澤 和敏

大森 玲子

横田 信三

役職名

副学長

副学長

副学長 特命副学長

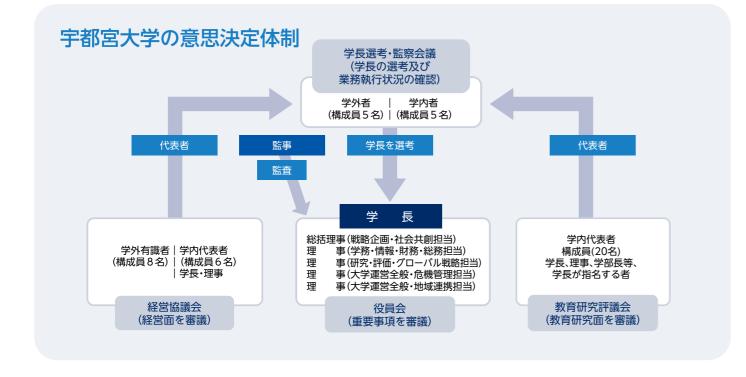
学長特別補佐 学長特別補佐

学長特別補佐

学長特別補佐

氏名	役職名
飯塚 真規	(株)TKC 代表取締役社長
飯村 愼一 (議長)	光陽エンジニアリング(株) 代表取締役会長
入江 淳子	入江公認会計士事務所 公認会計士•税理士
大川 容子	大川総合法律事務所 代表 兼 弁護士
松下 正直	(株)足利銀行 取締役会長
若菜 英晴	(株)下野新聞社 代表取締役社長
磯谷 玲	データサイエンス経営学部評議員
池田 裕一	地域デザイン科学部評議員
阪本 公美子	国際学部評議員
人見 久城	共同教育学部評議員
平田 光男	工学部評議員
西山 未真	農学部評議員





戦略企画本部を核とした戦略の企画・立案体制

社会の流れや大学を取り巻く変化に柔軟かつスピーディーに対応するため、執行部で組織する「戦略企画本部」を設置し、この 下で教育、研究、地域創生等における大学の重要課題に対し、戦略的かつ一元的に企画立案を行う体制を構築することで、大学 の価値創造を加速していきます。さらに、令和6年度より新たに戦略的な大学経営の実現に向けて、ニーズやIR分析に基づいた



財務情報 **ACTION PLAN & FINANCIAL**

貸借対照表(BS)

単位:百万円

資産の部	2022	2023	増減
○固定資産	78,449	78,180	△268
土地	61,369	61,369	-
建物	11,941	11,381	△559
構築物	737	683	△54
工具器具備品	648	688	39
図書	2,829	2,835	5
美術品・収蔵品	106	106	-
投資有価証券	658	852	193
その他	158	264	106
○流動資産	2,956	2,534	△421
現金・預金	2,496	2,119	△376
未収入金	243	191	△51
有価証券	199	199	-
その他	17	23	6
	81,405	80,715	△689

負債の部	2022	2023	増減
長期借入金	796	765	△31
寄附金債務	877	954	76
未払金	1,458	1,132	△325
その他	1,185	1,064	△121
負債計	4,317	3,916	△401
純資産の部	2022	2023	増減
資本金	73,540	73,540	-
資本剰余金	△2,150	△2,655	△505
○利益剰余金	5,697	5,914	216
目的積立金等	262	441	179
積立金	-	5,133	5,133
当期未処分利益	5,435	338	△5,096
純資産計	77,087	76,799	△288
負債・純資産合計	81,405	80,715	△689

貸借対照表は決算日(3月31日)における本学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的 としています。

この表からは2023年度末時点において、長期借入金を含む約39億円の負債と国からの出資等による約767億円の純資産から形成された 土地、建物など約807億円の資産を用いて教育研究等の業務活動を行っている構造が読み取れます。

損益計算書(PL)

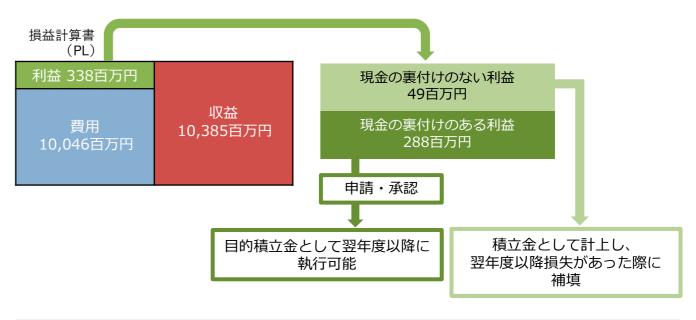
単位:百万円

経常費用	2022	2023	増減
教育経費	1,427	1,272	△154
研究経費	689	670	△18
教育研究支援経費	478	400	△78
受託研究費等	712	489	△222
人件費	6,316	6,648	332
一般管理費	547	560	13
その他の費用	2	4	1
経常費用合計	10,174	10,046	△128
臨時損失	29	0	△28
計	10,203	10,046	△156
当期総利益	5,435	338	△5,096

経常収益	2022	2023	増減
運営費交付金収益	5,316	5,659	342
学生納付金収益	3,074	3,136	62
受託研究収益等	721	550	△170
寄附金収益	264	311	46
施設費収益	96	16	△79
補助金等収益	309	279	△29
財務収益・雑益等	372	379	6
経常収益合計	10,154	10,332	177
臨時利益	5,250	0	△5,250
目的積立金等取崩額	233	52	△180
計	15,638	10,385	△5,253

損益計算書は事業年度内に本学が実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載することにより、その運営状況を明らかにして います。費用の側には教育、研究等の目的別に、収益の側には国からの交付金や学生納付金による収益等を財源別に計上しています。

利益の処分について



2023年度の利益(当期純利益)は338百万円でした。うち効率的な業務運営や自己収入の増加等、国立大学法人の経営努力により発生 した現金の裏付けのある利益は288百万円でした。この288百万円は、文部科学大臣への申請・承認の後、2024年度以降の本学の教育 研究の質の向上及び業務運営の改善に充てる予定です。とはいえ、建物の老朽化や、改修を要する設備への対応等にはまだ足りていませ ん。今後も外部資金の獲得強化に加え、新たな投資を呼び込むとともに、保有資産の最大限の有効活用に努め、安定した財務基盤の確立 を図る必要があります。

学生納付金収益の推移

検定料

収益

74

72

68

68

単位:百万円



※表はグラフの内訳。なお2021年度以前の授業料収益については、現在の国立大学法人会計基準を適用し算出し直した数値

57

65

65

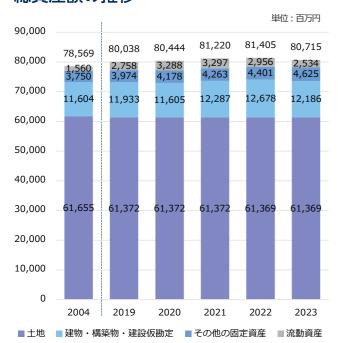
77

国立大学法人として自己収入の確保を求められているところですが、自己収入のうち大きな割合を占める学生納付金収益の過去10年のデ ータです。新型コロナウイルスの影響により一時的に低下した時期もありましたが、概ね順調に増加していると言えます。入学金収益と検定 料収益の増加は受験生に対する入試広報、授業料収益の増加は在学生に対するケア等が奏功していることが読み取れます。

65

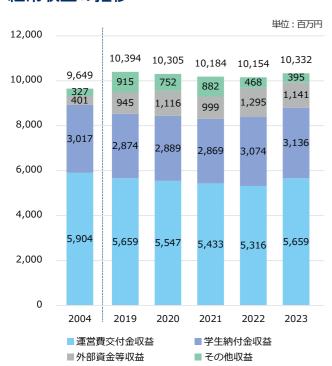
財務情報

総資産額の推移



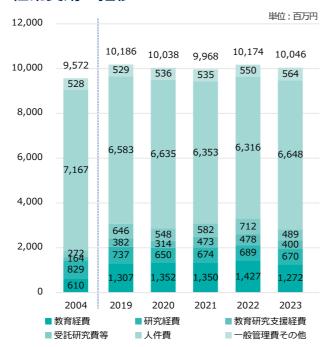
土地・建物等が総資産に占める割合が約9割となっています。 2004年度以降、新たな資産の取得があったものの減価償却による簿価の減少に伴って、総資産額に大きな変動はありません。

経常収益の推移



2004年度と比較して運営費交付金収益が減少している一方で、外部資金等収益は約3倍となっています。なお、外部資金受入額の推移は右図をご覧ください。

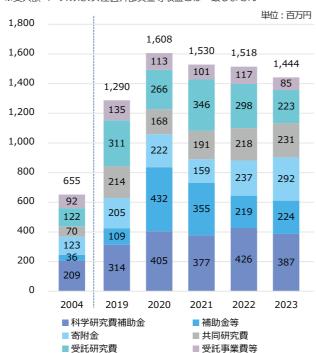
経常費用の推移



教職員数を可能な限り抑制して人件費を削減し、その分を教育経費に充当して教育の質を維持してきました。その結果、2004年度と比較して教育経費は大きな伸びを見せています。

外部資金受入額の推移

※受入額ベースのため、左図外部資金等収益とは一致しません



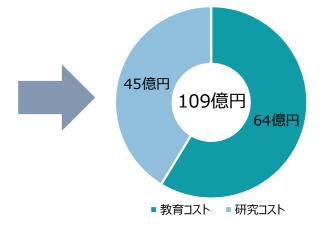
外部資金受入額は2004年度と比較して、約2.2倍と顕著な伸びとなっています。外部資金等の多様な財源の獲得は運営費交付金が減少していく中で、ますます重要となっていきます。

コストの見える化に向けた取組

既存の財務諸表には「教育経費」「研究経費」などが記載されていますが、ここにはそれぞれの活動に直接要した物件費のみ計上されています。しかし物件費のみではそれぞれの活動を行うことはできません。活動のためには教員・職員の人件費や大学の設備の維持・管理費等も必要です。これらの経費を含めた、教育・研究に関する経費を正しく把握するため、各経費を分析しました。

活動別コスト(2023年度)

	経 費	金額(億円)	コスト分析
損「	教育経費	12.7	教育コスト
損益計算書上の費用	研究経費	6.7	研究コスト
算	教育研究支援経費	4.0	
書	産学官連携経費	4.9	教育・研究双方に
重	役員人件費	1.2	寄与するため一定
用	教員人件費	46.3	の算定基準のもと
損	職員人件費	19.0	「教育・研究コス
益目	一般管理費	5.6	ト」に計上
算了	減価償却相当額	6.3	
0	科学研究費補助金	2.5	研究コスト
損益計算外の費用	総計	109	
713			



損益計算書上では費用として表示されない損益計算外の費用や、多くの部分を占める人件費等をコスト分析しました。これにより、損益計算書上では「教育経費」12.7億円と表示されていたものが、教育コストとして64億円と算定され、約50億円もの見えないコストが見える化されるようになりました。

学生・教員一人当たりコスト

上記で算定した教育・研究コストをそれ ぞれ学生一人当たり、教員一人当たりで 換算すると下表のとおりとなります。

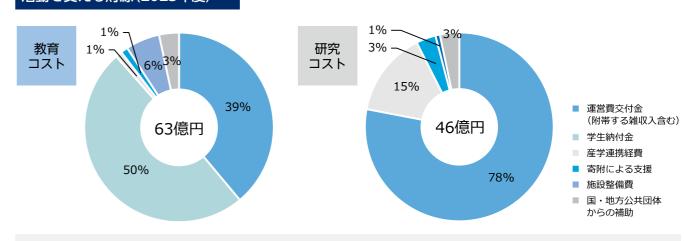
教育コストの 学生一人当たり換算額	126万円
研究コストの 教員一人当たり換算額	1,129万円





学生一人当たりの教育コスト126万円が年間授業料53万円の約2.4倍に相当しているように、教育・研究活動は多様な財源によって支えられています。

活動を支える財源(2023年度)



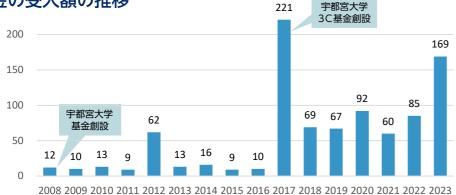
今後も持続的な教育研究活動を通して社会に貢献できるよう、安定した財源基盤の確立を目指していきます。



宇都宮大学3C基金は、学生の保護者の皆様、卒業生・修了生の皆様、地域の皆様、企業や組織など様々なステークホルダーの皆様からの ご寄附により成り立っています。大学運営のために国から交付される資金(運営費交付金)が年々減額されるなか、「宇都宮大学の夢の実 現」のために必要な資金として広く募集しています。

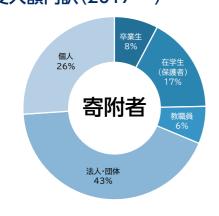
本基金は、従来の宇都宮大学基金をリニューアルして、2017年度に、本学のスピリットである3C精神(Challenge、Change、Contribution)にちなみ、「宇都宮大学3C基金」として創設しました。創設以来、沢山の皆様から多くのご支援をいただき、広く社会で活躍しうる人材 の育成に向けて、学生支援、教育研究活動支援、地域貢献活動支援、キャンパス環境の整備・充実等に活用させていただいております。 今後とも多くの皆様方からご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

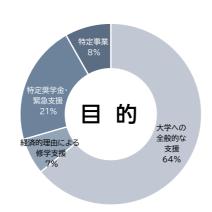
3C基金の受入額の推移





3C基金受入額内訳(2017~)





寄附の特典

プレゼント

個人でご寄附いただいた方へ、1年間の合計金 額に応じて、プレゼントをお送りさせていただ きます。

寄附金額	プレゼント
1万円以上	ハンドタオル
2万円以上	お米[ゆうだい21] 2 kg
3万円以上	オリジナルボールペン
5万円以上	お米[ゆうだい21] 2 kg +オリジナルボールペン

顕彰制度と銘板

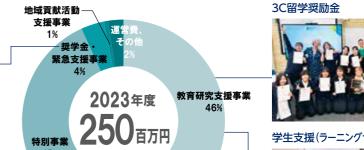
累積した寄附金額に応じ、以下の称号をお贈りし、銘 板を掲示させていただきます。また、貢献会員以上の 方へは感謝状と記念品を贈呈させていただきます。



称号	個人の寄附額	法人の寄附額	背景色	感謝状• 記念品
賛助会員	10万円以上	50万円以上	ピンク	
貢献会員	50万円以上	100万円以上	ブロンズ	0
特別貢献会員	100万円以上	1,000万円以上	シルバー	0
栄誉会員	1,000万円以上	5,000万円以上	ゴールド	0

3 C基金の支援実績





ヒストリカルゾーン環境整備

ヒストリカルゾーンは、6つの施設(峰ヶ丘講堂=登録有形文化財、石 蔵、UUプラザ、フランス式庭園=登録記念物、イギリス式庭園、日本 式庭園)により構成されています。これらの施設を誰もがより活用し やすくすることを重視し、それぞれの長所を更に魅力的なものへ、短 所は長所に転換する改善を施し、安全・安心で明るく彩り豊かな場所 として整備を行っています。



SDGsの観点から 給水スタンドを設置



宇大倶楽部(継続払い)

皆様がより手軽に、継続的に宇都宮大学をご支援いただけるよう、「宇大俱 楽部」が発足しました。

インターネットから一度お申込みいただくだけで、自動的に会員となり、定 期的により手軽にご寄附いただくことが可能です。

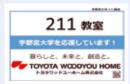
宇大倶楽部会員の特典

	個人·法人	法 人		
寄附金額	ピンバッジ UUnow 各種イベント	サポーター パネル	教室パネル	合同企業説明金優先参加
1万円以上	0			
10万円以上	0	0		
30万円以上	0	0	0	0
50万円以上	0	0	0*	0
10万円以上	0 0	0		0

*一時払いの場合でも1年間対象になります。







特製ピンバッジ 広報誌UUnow

教室パネル



サポーターパネル

大学名	国立大学法人 宇都宮大学	
英文名	Utsunomiya University	
代表者	学長 池田 宰	
本部所在地	〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350	
創立	1949年(昭和24年)5月31日	
資本金(政府出資金)	73,540,577,553円	
教職員数	623人	
決算日	3月31日	
会計監査法人	有限責任 あずさ監査法人	
URL	https://www.utsunomiya-u.ac.jp/	



峰ヶ丘講堂(国の登録有形文化財)



フランス式庭園(国の登録記念物)

「共創」と「複眼」

宇都宮大学は、全教職員はもとより学生、保護者、自治体、経済界、 産業界、教育界、そして地域住民等、多様なステークホルダーと密に 繋がり、双方向の関係性で「共創」の取組を進め、多様な物事や考え 方、思考スタイルに触れ理解する「複眼」という視点を持って Well-being社会の実現に貢献する「成長し続ける大学」を目指します。

宇都宮大学オリジナル キャラクター「宇~太」

学内・学外者ともに宇都宮大学に愛 着や親しみを持てる、宇都宮大学なら ではのキャラクターとして、2014年に 公募を行い、応募総数106件の中か ら学内投票等により選出されました。





 $(\underline{-})$ 巨いなる か 降る星の ぎりなき 地にのこる あ、白雲の 時流る「峰ケ丘」 かげなびく 人の想いぞ 天の心よ 書は語らん 「峰ヶ丘」 (四) 人の世は あ、永遠の あ、清純の 栄えあれ「峰ケ丘」

ともにゆく いやまさん 血はたぎる 日々のはげみに 代々のみのりぞ 勁き生命よ 「峰ケ丘」

望みあふれん

高空に まなびやは た、なわる 庭につどえる 緑に映えて 遠き山脈 (三) すじの 雲かげる もゆる火の ひろき学びにひろき学びに 信念ゆるがじ

(-)

学部学生数 うち女性 女性比率

	在籍者数	うち女性	女性比		
アータサイエンス経営学部	59	20	33.99		
地域デザイン科学部	616	254	41.29		
国際学部	465	362	77.89		
共同教育学部	717	407	56.89		
工学部	1,429	235	16.49		

4,161名 . 1,733名

41.6%

大学院学生数 うち女性 女性比率

969名 265名 27.3%

	在籍者数	うち女性	女性比率		在籍者数	うち女性	女性比率
■ データサイエンス経営学部	59	20	33.9%	博士前期課程	803	209	26.0%
地域デザイン科学部	616	254	41.2%				
国際学部	465	362	77.8%	博士後期課程	128	43	33.6%
共同教育学部	717	407	56.8%				
工学部	1,429	235	16.4%	専門職学位課程	20	13	34.2%
農学部	875	455	52%	■ 等门喊子世誄柱 	38	13	34.2%

卒業・修了者 進路状況 2024.3 卒業・修了者

1,305名

教職員数

623名

進学	(大学院・その他)				376
	教育	142	建設	43	
	公務	126	サービス	46	
就 職	製造	261	学術·専門	62	864
	情報通信	93	金融·保健	32	
	卸・小売	29	その他	30	
その化	<u> </u>				65

役員 (非常勤役員含む)	8
大学教員	327
附属学校教諭	83
事務系職員	205



卒業者・修了者

学部累計 大学院累計 57,975名 13,030名

	学部	生自力	大学院运	進学率	
95.0% -					
94.5% -		\bigwedge		<u>/</u>	94.1%
94.0% –	/	/\	/	/	
93.5% -			V		
93.0% -	•				
92.5%					
32.0%	2019	2020	2021	2022	2023



学 生

> 8 6 5

受入留学生数 派遣留学生数 255名 27名 ※2023年度累計

受入留学生出身国					
中華人民共和国	137				
マレーシア	34				
大韓民国	16				
台湾	9				
モンゴル	8				
バングラデシュ人民共和国	8				
カンボジア王国	6				
インドネシア	5				



協定締結数

海外大学 自治体·企業等 87校 133件

ベトナム	4
ナイジェリア	4
マラウイ共和国	2
ドイツ	2
タイ王国	2
スリランカ	2
ケニア	2
ガーナ	2
その他	12

※各データは2024年5月1日 時点のものです。



2024年12月 ACTION PLAN & FINANCIAL 統合報告書2024 お問い合わせ先

お問い合わせ先 宇都宮大学戦略企画室 ☎028-649-5005 e-mail:kkikaku@a.utsunomiya-u.ac.jp

